松浦記集成

卷ノ三

國費
文書係
第　號
年　月　日受入

48581
0791
15縣
16=2
5219
カ

松浦記集成卷之三

目録

松浦郡郷驛烽
鏡渡
褶振峯
賀周里
逢鹿驛
登望驛
大家嶋
値嘉嶋
松浦里
鈎細鱗魚之論
蛇化為人之説
小近。大近。相子停。川原浦。之説

045

七項目…願ヒマス…願ヒマス

一、圖書ハ丁寧ニ取扱ヲ……
二、哥中ノ紙ヲ折ラヌ樣……
三、指先ニ唾ヲ付ケテ頁ヲ送ラヌ樣……
四、墨汁ニテ汚サヌ樣……
五、鉛筆帶ニテ書入レヲ樣……
六、大キナ圖書ヲ片手ニ持ツテ讀マヌ樣……
七、圖書ヲ又貸セヌ樣……

48581
0791
15縣
16=2

賤之里
川上ノ里
唐津
唐人町
唐津焼陶器之土
満島山
唐土ノ原
振巾山
玉葛
珠島川
松浦岩
和多田浄茶屋

霞関
二里松泉
虹ノ濱
褶榧峯
鏡山
梅豆羅川
珍川
松浦八景

望夫石
座主ノ堂
澤嶽
包石
草野庄
久里セ川
松浦潟
さがき石
二瀬ノ縁
飛上り石
小夜姫屋鋪
小夜姫松

竹紫富士

小龍門ノ瀧
鼓ヶ瀧
宇殿岩屋
龜甲橋
鯨岩
松浦川
烏帽子嶽
太刀洗川
駒石
御都築ノ関
亂れたし
池峠

椎峯山
以呂波石
順慶松
土佐殿松
腰掛石
柴石
廣継硯石
疊崎
値賀ノ浦
沛茶之水
衣干山
阿那多之橋

土器崎
堅神岩
呼谷
古唐津陶器
鎌倉嶽
太刀淵
皇王
鉾嶽
響ノ灘
神集島
渋浦
楢村

相賀
見留加志
登望
谷草
相知関
萱原
心之関
七瀬ノ淀
大家ノ島
値賀ノ島
篠原長者
鏡之渡

松浦山
小杵山
通石山
五ヶ山城
五ヶ山
七山
陣之元
喉之淵
笠山
舟橋
金剛山
浦河内
剛山ニ
羽羅河ニ
牧瀬
嚴木
楠
千束
折敷野
郷城
古城
御達頭
久禪坊屋鋪
城之平
構屋鋪
天下橋
過瀬ニ
巻瀬ニ
御塔頭ニ
館中ニ

堂之谷
潛門岩
圍之岩
高麗人屋鋪
乾鼓山
上戸山
憶ノ谷陶器跡
玉ヶ橋
龜ヶ岩
波多川
白糸ノ瀧
雌雄瀧

漁浦六ヶ所唐津領今世漁浦
有田陶器山
大河内同
廣瀬山同
大坊山同
黒牟田山同
外尾山同

伊万里
楠久浦
山代郷
漁場五ヶ所

伊岸氏
今里氏

五島

玉ノ浦鯔網　同
同浦鰯網　同
切通井樋　唐津
葦之浦　平戸
田平　同
飛鸞島　同
亀城　同
御厨　同
星賀　同
尾部多　同
志佐　同
今福　同

河内浦　同
津吉　同
七ツ之嶽　五島
西高野　同
御嶽　同
十二川　同
蘆山瀧　同
男女島　同
三井楽　同
産物　同
福江城　同
平戸鯨漁浦四ヶ所　平戸

五島鯨漁浦四ヶ所
唐津鯨漁浦一ヶ所
大村同　三ヶ所
壹州同　二ヶ所

伊万里城
唐船城
山城城
桃川
三嶼
陳之元

五島
唐津
大村領ノ内二ヶ所松浦一ヶ所彼杵
平戸領

伊万里　佐嘉領
有田　同
山城郷　小城領

御料

大谷　同
堂綸石　對州領
新島森　大村領
舟坂山
名護屋城　唐津
同諸侯陣跡　同
唐津城　同
志州侯唐津并領後掟目
唐津領縦横里程
御茶屋　唐津
御境目番　同
古城番　津守番　牧島番　遠見番　同

御高札場　唐津領
往還筋峠　同
往還筋大橋　同
嶽唱山　同
郷足軽　同
寺沢家唐津御改易後掟目　同
唐津御城主御入部嘉例　同
同庄屋相續　同
厳木村惣庄屋次郎右衛門　同
山度村龜ヶ岩　同
心月寺住持書役　同
米壱万石　公儀より唐津江御預　同
唐津夫役御慈恵　同
唐津農之時御慈恵　同
唐津領産物　同
墳墓　同
波多庾五代之碑　同
佐里村之内表石在り土穴在り　同
波多庾奥方諡　同
鹽尹垂澤碑　御料
孝子善久之墓　同
古跡之中不分明質目　同

寛政年間、長崎人、大冢惟平、集成肥前風土記、而皇太神宮、權祢宜、從四位下、荒木田神主久老、校正之、按、華平松浦郡

○松浦郡　郷一十一所。里二十五　驛伍所　烽捌所

昔者気長足姫尊、欲征伐新羅、行於此郡、而進食於玉島小河之側、於茲皇后勾針為鉤、飯粒為餌、裳絲為緡、登河中之石上、奉鉤祝曰、朕欲征伐新羅、永彼賊寇、其事功成、凱旋者、細鱗之魚、呑朕鉤緡、既而投鉤、片時果得其魚、皇后曰、甚希見物、謂希見、豆羅志國曰希見國、今訛謂松浦郡、所以此國婦女、孟夏四月、常以針鉤、釣鮎魚、男夫罹鉤不能罹之、　鉤細鮎魚之論在奥

○鏡渡在北郡

昔者檜隈廬入野宮、御宇武少廣國押楯天皇之世、遣大伴挾

千度連。鎮任那之國。兼救百濟之國。奉命到來至於此村。即娉篠原村篠謂第日姫子成婚昭下部君祖也容貌美麗。特絶人間。分別之日。取鏡與婦。々含悲啼渡栗川。所與之鏡。緒絶沈川。因名鏡渡。

○褶振峯在郡東峰名曰褶振峯

大伴狹手彦連。發船渡任那之時。第日姫子登此用褶振招。因名褶振峰。然第日姫子與狹手彦連相分。經五日之後。有人每夜来。與婦共寢。至曉早歸。容止形貌似狹手彦。婦抱其怪不得忍黙。竊用績麻繫其人衣裾。隨麻尋往。到此峯頭之沼邊。有蛇身人而沈沼底頭。蛇而臥沼窪。忽化為人。即謂云。志奴波羅能意登比賣能古表。佐比登母。為祢豆牟志太夜。伊幣尓久太佐牟也。于時第日姫子之從女。走告親族親族發衆昇而看之。蛇并第日姫子亡不存。於茲見其沼底。但有人屍。各謂第日女子之骨。即就此峯南造墓治置。其墓見在○蛇化為人之説在真

○賀周里在郡西北

昔者此里有土蜘蛛。曰海松檜媛纒向日代宮御宇天皇。巡國之時。遣陪從大屋田子。第日下部君祖也誅滅時。霞四含不見物色。因曰霞里。謂賀周里訛之也

○逢鹿駅在郡西北

曩者気長足姫尊。欲征伐新羅。行幸時。於此道路有鹿遇之。因名遇鹿駅々東海有蛸螺鯛海藻等。

○登望駅在郡西

昔者気長足姫尊。到於此處留為雄装。御臂之鞆落於此村。因号鞆駅。駅東西之海。有蛸螺鯛雜魚海藻海松等

○大家嶋在郡西

昔者纒向日代宮御宇天皇巡行之時此村有土蜘蛛名曰大身拒皇命不肯降伏天皇勅命誅滅自尓以来名水郎等就於此島造宅居之因曰大家嶋嶋南有窟有鐘乳及木蘭廻縁之海蛇螺鯛雜魚及海藻海松多生之

○値嘉島在郡ノ西南之海中有烽火三所

昔者同天皇巡幸之時在志式島之行宮御覧西海海中有島煙気多覆勅遣陪從阿曇連百足令察之島有八十餘就中二島島別有人第一島名小近土蜘蛛大耳居之第二島名大近土蜘蛛垂耳居自餘之島並人不在於此百足獲大耳等奏聞天皇勅且令誅殺時大耳等叩頭陳聞曰大耳等之罪實當極刑雖被戮殺不足塞罪若降恩情得再生者奉遣御贄恒貢御膳即取木皮作長蛇鞭蛇短蛇陰蛇割蛇等之様獻於御所於茲天皇垂恩赦放更勅云此島雖遠猶見如近可謂近島因曰値嘉島則有檳榔木蘭梔子木蓮子黒葛篁篠木綿荷蒐海則有蛇螺鯛鯖雜魚海藻海松雜海菜彼白水郎當於馬牛或有一百餘近島或有八十餘近島西有泊船之停二處一處名曰相子之停應泊二十餘船一處名曰川原浦應泊一十餘船久之濟即川原浦之西濟是也遣唐之使從此停發到美禰良久之濟即川原浦之西濟是也從此發船指西度之此島白水郎容貌似隼人恒好騎射其言語異俗人也○小近大近相子停川原浦說在奥

按松浦川ニ男夫鮎ヲ釣レハ不能罹之トヽ云事ハ怪說ナラン一体春分登リ鮎ノ時ニハ釣ニ罹ル也鮎良成長シテ五六月ニナレハ石ニ付テ苔ヲ食フニ至ラハ餌ヲ喰マス此鮎ノ性其理ナリ又釣ルニ男女ノ差別ハナシ然レトモ人性騷々客影ヲ動レ言ハ多キ者ハ男夫ニ限ラス人影物音ヲ恐レ近寄ラサル

其理アリ時ニ皇后戰功ノ兆ヲ試ミ玉フ時ハ冑トアリ

玉島川ハ海ヲ去ル丁僅ニ壹里内ニテ其頃登リ鮎多ク川上ニ至ル餌ニ付丁稀ナル時也然ルニ皇后誓テ釣糸ヲ垂レ玉フニ忽チ罹リシハ吉兆也古昔孟津河ニ白魚船ニ入ルモ吉兆也仍テ魚飛テ船ニ入ル丁無キニシモ非ス然レ氏此時ニ當テ此事アルヲ吉兆トス怪ムヘカラス

鏡山ノ沼ニ住ム蛇アリ人ニ化スルノ変亦怪説也婦人其夫ヲ慕フノ念深切ニシテ其容貌ヲ憶ヒ成ス事ハ有ラン又思夢ニ入ル等ノ変ハアルヘシ古昔ヨリ吾邦ノ俗説多ク方便ニ出ル丁怪ムヘカラス天地陰陽鬼神ノ説都テ理ナキ事ナシ

今ニ及テ狐狸陰火等ノ怪説多ク邊鄙俗習ノ迷ヒ心ヨリ出ル丁也或ハ狐ヲ云狸ヲ云犬神ト云川童ト云モノ皆人ニ付惑ハスト云丁諸所ノ俗習忘念ニ始ル丁也仍テ理アリ信スヘカラス

相子浦ハ呼子ノ丁歟小近ハ小値賀島也大近ハホニ賀ノ丁歟川原浦ハ川原部多ノ丁歟土蜘蛛ハ土俗ノ惡黨ヲ云歟雲助等ノ名モ是ニ本ノ歟

各所旧跡

○松浦の里　鏡村客境内ホをさ一て云

○賤の里　震ヶ関共云又震ヶ里トモ　淺嶋村を云

○川上の里　平原村

○唐津　古昔唐土の船入津する所也

○唐人町　唐津村

太閤高麗御帰陣ノ節焼物師召具連此所ニ至ル所ニ窯ヲ築キ焼物ヲ為シテ居ルト云夫より唐津焼茶碗徳利皿出来ル之

○唐津焼と土　半形村より出

此土寺沢廣高代より出ざりしが大久保彦右衛門代に始むし公儀へ献上なる土

高麗の土に少も加へざれば日本無双の土と云

○同　笠椎村より出

此土も右御用に相成

○満島山　満島浦

是は今の唐津白鶴城の本丸志州侯城番諸々満島浦猿ヶ山

なりしを松浦川を山と浦との間を堀通し本丸則満島山と

○唐土の原　二里ほどの原　虹の浜共云　満島峯間の松原と

此浜砂と松と海の色と虹形に曲りて絶景なれば歌名つくと云

新勅撰集歌に多く松浦が沖に漕出て唐土までの春を見しの郎

○振巾山　褶振峯共云　鏡山

松浦佐用姫大友狩多氏人唐の船を見送て此山に登り袖を挙て其布を振り招きしより

名付る山と云

古歌を言伝

末つゆるゝ忘れぬる山をみに見くいるべき松浦小夜姫

松浦川の名言し小夜姫の忘れぬる山乃月雨の古詠

又

此山を鏡山と号る事古昔神功皇后三韓に事なし時此山に登りて海底

見の鏡を御覧なしに旅の姿流きの船ゝ鏡を捧ゆ此山の名

となるしと云云

○玉葛　鏡山と言に在

玉葛の内侍の旧跡と云松浦物語と云謡に作りし外百番のうちと云

○珠島川　珠川共又謂梅宝羅川　別の上村に流れ出

口碑に云皇宮異國退治の兆を考へ釣を垂れ鮎を得るに

果して吉兆なりと又干珠満珠の玉を海人に授ける城に寶

然て彼の地に於て御武運強く日出度儒利を得るなと夫より此石を

珠島と云又此珠島川の名造に紫色の石有り皇后立せ給ふ石と云伝
元和年中の洪水にて川底に埋るとなり

○松浦岩　　和多田村に有り

松浦川の流き和多田の内に岩有り秀吉公名古屋より後に集に彼に著作
志村に任せて松二本根引して一切い和多田ト大石に境に植一本い
松岩と立に植しと言と傳へ云う是を松浦岩と云又松浦松い平戸領
今福に有る玉て景絶き名所也

○和多田御茶屋　　同村

大久保加賀守公に御代出来る所茶屋と此所絶景に坊而て

松浦八景

八景

振巾秋月（にフル山 鏡山）　恵日晩鐘（恵日寺 鏡ガ三在）　綿田落雁　和多田也
浮岳暮雪（きき岳 ナリ）　霞濱青嵐（虹ノ松原 ナリ）　漢江夜雨　松浦川也

○望夫石　　加部島

松浦佐用姫夫君大友狭手彦入唐の別れを慕ひ思ひ煩ひ死
して石と成ると云ひ傳ふ則ち我邦の望夫石有り
右ハ松浦岩に登しを加部島田島大明神の事任を移し崇め
奇る秀吉公朝鮮征伐の節此社に祈誓ありて高百石に知行を
宛行れ給る夫より東都
神君の御代と成りても高百石に知行を加部島にて以載致し

鶴城夕照（唐津城也）　響洋遠帆　玄海

平原村

○産土堂

作用姫菩提寺の本尊観世音椿の木にて刻みしを此所に安置しこれ豊を世豊の堂観世音と云

吉井村と白木山の間にあり

○浮嶽

吉井嶽とも筑紫富士とも云西行行脚の時此山を尋ね詠めると云伝ふ哥に

音に聞く筑紫の富士を尋ねてぞ雲にまがふ雪のうきゝ

こゝより西行岳とも云伝ふ

○包石

肥筑の境石

筑前国上郡底家村と肥前国松浦郡測上村との間郡境石と

○草埜庄

横田濱崎迄ヲ云

大村、内岡口村に古城ヲ鬼ヶ城と云元神皇功后の遺跡なりしを後草野中務太夫慎永筑後国草野庄より移り此所を領し鏡大明神之神職を兼る治め其旧地の地名を移して其所の領地を草野庄と云後世松浦郡草野川筋大川野辺迄を草埜道と云も是に本くせ

○くりやゆ川

久里村

松浦川の流れを久里村の等也又黒髪山の水上より道法九里の川先に當る故に九里村と云と云ひ傳へ然るに志州矣永久を祝して久里と替よと也大分久里と書也

○松浦河

久里鏡の辺を云

今の久里村鏡村泉村梶原村宇木村柏寄村辺迄ハ入海にて遠干潟也是を松浦潟と云寺沢侯御普請にて唐津城山と満島との間を川堀し松浦川水を引能く成り右之村々辺都て田原と成り松浦かゝと云遠干ハ名ゐ已と云きり

歌

松浦潟なるゝ鶴を友にして遠干にたゝる一ノのさゝ

○さゝれ石

佐用姫夫の佐手彦に名残を惜しミ阿さゐ迄し所の石也今ハ金ぶな石と云

鐘村に在り

○二瀬の縁

松浦川波多川との落合を云中山ノ関ハ近辺に在り波多筋也と有り

○飛上り石

西行飛上り石と云傳ふ川原橋の下川岸に在り彼ノ僧行脚の時腰をゝけ歌なと詠しゝる所の古書に有り儘記ス也

蓑毋田村

○小夜姫屋鋪

唐川村

佐用姫ノ親篠原長者と云ハ篠原村ノ辺に今長者屋敷竈跡後人平タと云所有りて是則佐用姫ノ生れし所と云肥前風土記に出ゝり然ルに此所の屋鋪と云ハ其縁有ル郷士の家紋又ハ美婦人出来ゝるを後世より佐用姫と云ひなしあるゝ古書に有ル儘次に記ス

○小夜姫松

奥村

古書ニ小夜姫玉手箱を爰に置クとて印ニ松を植し
よしを云故ニおく村と唱ふなとゝアリ又宗ル遺ひ
信用仕りさゝ見も亦他の女の跡を前詠の此く云傳
ふ事歟

○小龍門瀧　伊岐佐村

次瀧　実ニ絶景也白賁詩曰題小龍門
伊岐四岳鬱崔嵬。久秘雲衢乱石隈。飛流直下三万丈。憾
不我携鼓溪來。其景人の知ル処少。詩を書して餞之
高サ六十二間男瀧女瀧と云有り又次瀧か一里程ニ不動瀧と云有り

○鼓ヶ瀧　千々賀村

歌
音に聞ひゝ夢か瀧をうち見しハ沢辺にさふたん草の花
山口村ニ在

○宇殿岩屋　相知村

大盤石ノ岩屋ニ佛像ヲ切付アリ

○亀甲橋　平山下村

山より山ニ掛ル自然ノ岩橋也

○鯨岩

鯨ノ形ちに似ゝる大岩也又辺にちゝ留川と云所
有り

○松浦川　東川筋　大川筋

五ヶ山より流れ出東川筋村々を過て唐津に出る
鮎ノ名産也川下ニて鮎鱒鯉鮒ノ類産する也西川
ト云ハ佐嘉領黒髪山ノ流き出大川野筋を過て久保
村ニて東川ト落合夫より下橋本村ニて波多川ト落

会津海ニ入

立川村

○鳥帽子嶽

佐竹義隆造寺山城守隆信ノ旗下大塚釋正忠。鎮家。此處忘不ーを脱き捨る所ありしか山の名とす

同村

○太刀洗川

右鎮家戰場此村ミ内に有り

駒

駒鳴村

駒鳴峠の坂中ニ有り石形馬ニ似つり依て号ス村名の起ル也一ニ云鎮西八郎爲朝梅野の他ニて大蛇を打亡ー其鱗を馬に負せて此峠を越ル時荷重く馬鳴る故に村名となりしよしを傳ふ

○御都築ノ関

志氣村

鎮西八郎爲朝鎮西職ノ時分の関と云此人古今類無き強弓なる事を云傳ふ此近邊ニ矢竹村高屋ノ本杯と云傳ふる事有り又ミ体ノ築て名物有り

藁汲

夕霧や立ち籠めらん岩恒のミつきの関に船も通ハ

光俊

○鳥ものさー

古川村

村上ニ有ル小き橋を云又大閤秀公公名古屋在陣ノ節此所ニて鶯を取り鷹ーいりしが此鳥音能くふタり一故愛せちきなり然ルに此鳥鶯を喰ひ違ふて鳴きー故鳥を捕りー所を乱ーすしと云傳へつり

府招村

○池峠

伊万里兵部太丈ト申人沒多ノ本家ノ境ト不分明也ー此ニて双方後人申合せ双方鶏の聲を聞直ニ楽り出

し出會ノ所を境とされへしと。然ルに五ニ後人入違ひに若し居て後多頼の鳥胥鳴きしるや鷄鳴か直ニ馳出し所伊百里ノ白野と申所まて来出しなれハ伊百里兵部太夫ノ後人ニ出會依之御断有て次峠ノ下迄御引戻し五ニ和談ノ上御酒吸物等是をつゝ其辺の栗ノ木を以て箸ニしるを立ら志しら次栗根付へり し由次栗二三歩四方ニまへ繁きりと也其後寺沢兵庫公落ち後御料となり御料後人齋藤左源太殿峠ニ尾崎ニ境杭をたゝふと也鷄鳴ニ説如何敷事也古代ハ斯る計らひも有り事ハ古書ニ儘記之

○椎峯山　府招村

別記ニ慶長年間ニ高麗人文禄慶長ニ頃高麗人を被召焼物を初めらる始ハ佐大川野・田代ニテ焼物ハ始同八年ニ川原村ニ移り十三年ノ間陶器ノ製ニ元和三年椎峯山ニ移リ今ハ相續ス

○イロハ石

いろはの文字石に有りといへとも明らかにあらしいと志しして見るのミ決て天工ニ有へき理なし若有ら人作なるへし

大黒川村ニ福田村

志ニて焼夫か藉田山ニ移り又大川野組田代村ニ移り夫か川原村へ移り元和ニ頃椎峯山ニ移り其子孫相續今ニ焼発

○順慶松

申傳ふ所ハ筒井順慶次所ニ生れ十八歳ニして次所を出る時植置し松と云其木ハ天迄り余と云筒井氏ハ大和国郡山ニ五高八万石迄領せし人也

筒井村

○土佐殿松

同村

當村道ノ辺ニ大なる松有り之佐殿松と唱ふき共如何なる人か不分明也

入野村

○暖掛石　通りの人暖を掛るゆへ云なり

西行坐石ニ懸て詠せしと云歌ニ

松浦なる是より先に山も有一月の入野の限りなるらん

筑前續風土記ニ西行法師ハ筑前鐘の御崎迄参り夫より帰りと自讃の記ニ在り如何然と共筑前ハ西諸所ニ法師の旧跡多し

同村

○業石　業の像あるゆへ諸所ニ有きとも此所名高し

○廣継硯石　伊豆屋村

○置崎　同村

実ニ見事の絶景也

○值賀ノ浦　伊豆屋浦をちかの浦と云船津ニて漁浦也万葉集ニ賀能岬云

同村

○御茶之水　神田村

寺沢侯事ち吸れしと云

○衣干山　唐津ノ冨多期ニ有り

神功皇后三韓に事有り一時此所に衣を干しゆふより此山の名とは

○なるゝの橋　佐志村

廣継ハ太宰少貳ノ事歟

○土器崎（とっけ）

岩の形かてらけをふせたるかき故爾云平より見れハ桟木を重ね積たるに似たる故桟木石とも云海岸にして七つの穴有故に七つ窪とも云端なる一つの窪ハ側らに通り抜けたり波静かなる時ハ窪毎に船を漕入てよし一つノ窪ハ船を漕通さるゝ也怒濤の時ハ白波穴に打込空に登りて落る故中々船を寄る事なら不実に絶景船より見る所也

漢村

○立ら神岩

海邊より竿を突立たるかき岩々川と立出て数間有りて雲を突ら如し実に天工ノ妙なる巌石也

呼子浦

○呼名

国花萬葉記に曰松浦山より五里許坤の方に呼名ト云所有り此浦里の向とに田島社有り社内に望夫石とて松浦佐用姫が狭手彦渡唐ノ船ヲ慕ひ死して石となる也此所より其名を呼る故に呼名ノ浦と云浦より島へ十丁斗也と云か今ハ呼子と云船津也江向を殿ノ浦と云田島社ノ在ルヲ壁島と云社内に望夫石有り

○古唐津焼

古昔神功皇后三韓より此官者三人を召連玉ひ陶器

太郎官者村
小次郎官者村
藤平官者村

ヲ製スル事を始め玉ふ其者ノ居所を村名とし於
今唱へ来る故人々ノ製スルを古唐津焼と云又三
韓ノ土ニテ作リ日本ニ持渡リテ焼さるを火バカリト
云名有リ

○鎌倉嶽　竹有村

西明寺時頼日本国ノ時此山ニ暫ク安坐アリテ諸
方遠有リし故ニ鎌倉岳と号ク

○太刀渕　徳居村

村上ニ有ル渕也波多三州侯没収ノ後其家臣ノ太刀
を取上此渕ニ沈メられしと云

○釜玉　岸山村

巖下ノ空洞に觀世音在リ

○鉾嶽　同

權現祠在 魁ふ嶽城ノ鎮守と云

○鄉音灌　玄海洋

唐津より北海をさして云玄海ノ事也松浦八景ノ一
也和多田御茶屋より八景を見渡す故ニ和多田御茶
屋ノ下に八景出ス神功皇后渡浦ニ軍勢揃ノ時北海
音高ク聞ユル故鄉音灌トと云

○神集島　唐津八島ノ内也

一名和田ノ津と云神功皇后此島ニテ神軍を集め玉
ふと也此島に弓張ノ石ト云有リ

○渡ノ浦

皇后北浦より御船に召れしと云神集島と向合さる

浦也　或人曰和珥ノ津ト八湊浦ノ事也ト

○指シ村　佐志村

皇后諸軍を指揮ス　玉ふよりきしとハさし　麼玉ふ事也

○相賀　相賀村

古代逢鹿ノ駅ト云　皇后凱陣ノ時五ニ相賀し出ふより爾云

○見留加志　見借村

天平勝宝六年此所ニテ田十五町大宰少貳藤公ノ

○登ト　友村

登モ

古代登望ノ駅ト云　今大友小友ノ両村ヲ云

○名草　名古屋村

古代名草ト云皇后ノ時代カ

○相知関　町切村

此関何ものの代か唯云傳ふるのみ

古歌に　この中ゆ　相知の関と人問ま　松浦の川の上と答へる

○蛍　泉　長部田村

蛍村を古代このやらと云ふ

○心乃関　丑女田村

大百番　ふ我重ね心の関のかゝる哉別れハ鳥の空音なるかと

○値賀ノ浦　前ニ出　仮屋浦　有家

船津ノ人家漢人也　可象集ニ皆可彼岬と云海にさし出多り所也

43581

○七瀬の淀（古歌に）

松浦川七瀬の淀よ　松浦川　我はよもすがら君をぞ待つらん

○大家の島

肥前風土記に在郡西北の方に大家島あり　昔降伏天皇勅命に従はず　自ら以来白水郎等就居之島

○値賀島

平戸　小値賀島

小値賀島ハ云天平十五癸未年大宰少貳藤原廣嗣官兵を道んで次島に来り異朝に渡んとしけれども順風飛て引返して橘浦に至り遂に捨せしを云ふと社記に出

○篠原長者

篠原村

篠原村より牧瀬野舟山にうけて古跡有り地名に長者原長者屋敷鍋窪跡役人平ゥなどの名有り長者ト云ハ古代郡縣を司る官名と聞ゆ肥前風土記に松浦佐用姫ハ篠原長者の子也大伴狭手彦連鎮西に任ず那ノ津の国に渡り救百済之国奉命到来至松浦村即嬬篠原村第日姫子成婚ト云リ是即松浦佐用姫也

○鏡の渡

肥前風土記曰狭手彦連ノ婦容貌美麗ニシテ特ニ絶タリ人間ニ分別之日取鏡供婦々含悲啼渡栗川ノ所供鏡ノ緒絶ル川因名鏡ノ渡婦者佐用姫也栗川ハ久里也

久里村

○松浦山

鏡村前ニ由ル処ノ振中山是也種々異名有ル故ニ異ニ唱ヘ

振中山トモ又褶振峯又鏡山トモ

芝山屏風ノ詞ニ

勢美の羽の衣に秋をまぼらせそれふる山のかげそそ

定家卿

忠房親王新續古今集ノ詞

松浦山夕越くれぬ玉島の里のつゞきに立ぬけり哉

忠房親王

新千載集

逢みんと思ふ心ハ松浦なる鏡の宮や空に知らるゝ

藝式部

国華萬葉記

遠川人松浦佐用姫妻戀ふ心ハ松浦なる山ハ名のみ

山の名といひつゝ佐用姫ゝ此山の邊に

○小杵山　天川村

東西八十間南北百三十間雜木山麓ハ絶頂迄七十ど

ゝら山共云阿羅大宮司惟直自害之所也尤五人塚と

云ハ通石山之半腹ニ有リ生害ハ此所と云也

○通石山　同

麓ハ絶頂迄六丁草埜也在屋宅より一里絶頂より少

下ニ大石ニ穴有て通りぬけさゝ有リ其岩石高サ数

丈外廻リ五丈ハ尺石穴の高サ四尺五寸入口横四尺

二寸長ハ尺此石穴ハ入口ニ權現祠あり高一尺六寸

横一尺三寸四方臺ハ宮迄高サ二尺五寸南向也通石

權現と云

○五ヶ山城　平之山

是ハ鎌倉將軍家之時千葉之久常亂ヲ以テ此所探題

職ヲ任セラレ吒前国小城郡晴氣城ニ轉テ諸郡ヲ治ム是ヲ佐ル人々ノ内小城松浦山内ニ出張組頭ヲ人組下ノ士世人死トアリ五人ハ秀島讃岐守五ヶ山城ニ居ス前田信之進宗田佐渡守松山兵庫之進山上十五左エ門ハ小城山内ニ居スト別記ニアリ木下大膳毛利太郎九郎等五ヶ山ニ居シヲ事ヲ執ル也後封国トナリヲ淺多家ニ孫ス

○五ヶ山

是ハ平之山廣川山天川山星領山鳥巣山右五ヶ村を村々ハ五山ト唱ふ事往古よりの事ニて御国繪圖も亦然リ五ヶ山七山を松浦山内トゝ小城山内トゝアリ

○七山

是ハ瀧川山仁部山木浦山馬川山蕗川山藤川山白木山次七山右同断

○陣ノ元

天正年間佐嘉龍造寺隆信與鄉子城鶴田上総、双之戰場也近邊ノ畑原ヨリ矢ノ根ナド堀出シ今所持ノ者四五人モ秘置矣を圖ヲ成シ別ニ記ス鎧ノ草摺等岩屋村淵普請ノ時堀リ出シタリ

牧頼村

廣瀬村

○喉ノ渕

松浦川ノ上五ヶ山ヨリ一所ニ落込水漲リ集リテ大ナル渕トナリ深サ底ヲ知ラスナド、云夫ヨリ廣瀬ニ流レ水流トナリシヲ古代川筋一所ニ堀流シ田所

ト成ル廣瀬ノ名其時ノ変ヒトヽ云

○管山　同

近邑ニ秀てたる竹林也

○舟橋　中島村

松浦川上昔シハ二股ニ成リテ其中ハ島トナリテ其島ニ橋ヲ懸ヲ是ヲ舟橋トヽ云地名トナレリ元廣瀬村同村ナリシカ後別村ニナリテ中島村トヽ舟橋ハ北ノ方ヨリ中ノ島ニ渡ル橋也南ノ方ノ流レヲ墨田川ト云隅田トモ書也

○金剛山　牧瀬村

金剛平ハ云ヒ辺昔シ山伏ヲ行場有リヽ云傳ル富村ニ今産神ヽ崇祭ル熊野權現社金剛平山伏谷山伏嶽作禮嶽其外諸山ニ渉リ修験ノ法行ヲ修ル所成リシ由ヽ云傳ル金剛平より鳥羽山萬象山ニ峯續き皆嚴木村浦河内村両三村ニ渡リヽ居地名也

○浦河内

是ハ上松浦郡ヽ内ヽ中也畑河内梨河内値賀河内唯河内後河内重河内合せて七河内也然ルニ海邊遠キ村名ニ浦河内ヽ唱ふ事或人疑ふ是ハ元松浦川の内ヽ云意を以て浦河内ヽ唱ふ天張東都御国繪圖ニ浦河内ヽ出ヽ川筋を流き玄海ニ入ル茲ニ奇ヽ事有リ此浦河内ヽ西北ヽ方村々ハ其石都て目ヶ石也川ふ東南ヽ方小城松浦両郡ニ掛て皆碁目ヶ石也石ハ土地ノ産也

○牧瀬

其流きを境イ石ノ替ルヿ奇也又河内ト云地名ハ漢土ニも河内河北河東河西杯と有り江淮河漢ノ四大水ノ中河ニ本ツいて河の内ニ當ル所を河内ト云日本ニテも五畿内ニ河内ノ国有り是ハ後ノ世ノ川の流れ分ちしる名なるべし其外所々小名ニも河内の名有るハ其所々の僅の川を以て名を得るもの也又一ニ相羅河とも云又近辺牧瀬村の街道ニ飛鳥踊り車原と云所有りて白賁詩ニ曰

君家堂宇色幽多。宇下風光竟若何。盤石通車飛兎徑。寒泉戛瑟羽羅河。餘酣嘯月塵腸損。秘思探幽靈谷磬。嗟我北行期既盡。相携請且送嚴阿。将北幾東村正

是ハ一ニ巻瀬と書くるを見る松浦川の瀬の遥タル所有り故ニ巻き瀬と呼なほ也後世牧ノ字を用る事御国繪圖以前よりと聞き

○嚴木

是ハきうら木と唱へ来る事松浦川の西嚴木と内に古昔楠の大木閑關以来と云やうな新大なる木有りを倒しゝる時川を越て東に渡り今嚴木ノ村ニ及ぶるとなり人の莊嚴なる如く嚴(いつく)しゝり木なるる故に村名ニ呼べり其傍に木挽谷(コビキ)有り川向に椹(カテ)の木と云地名有り

○楠

次楠村大古楠ノ大木有り近年祭神とは故神社ニ列

ニ書記シテ次ニ略ス

○千束

次村名ヲ得タル事古昔延喜式之成ル其頃稲束(イナタバ)ニテ年貢ヲ定メラレタリ稲一束数五升ト有リ千束トハ土地ヲ美シテ大数ヲ呼ル来リ終ニ村名ト成ルトモ

○柝敷野

波瀬村

是ハ天正年間戦争ノ時龍造寺勢ヨリ矛鉄ヲ放猟子城ノ向ニ當ル

○御城(ガミシロ)

廣瀬浦河内村境

是ハ御城越ト云処何ナル故ヲ以名付タル欠山ニ三ケ所堀切アリ中島ヤリ浦河内ヘ越ル所梅越ト云

廣瀬ヨリ浦河内ヘ越ル所三ケ所ハ御城一ハ島帽子岳越一ハ中泉越ト云

○古(ふる)城(ジロ)

牧瀬村

是ハ小名成河内ニ有リ一ニ曽多山ト云篠原長者ノ居トモ云又渋江某ノ居所ヲ云明ニ分ラス

○御塔頭

巌木村

タツチ少森ト云アリ或曰勢州ノ浪人滿瀬志摩守波多家ニ仕ヘテ次地ヲ領ス其子駿河守守則其子孫ハ郎分大庄屋ノ屋鋪ニ居住ス後庄屋屋鋪ト成ル是其守則ノ墓ナラント云

○鶴田久禪坊屋鋪

同

當村大谷ト云所ニアリ上総介賢之弟山伏ト十リテ

次所ニ居住セリトス又清水観世音ノ祠アリ銘ニ鶴田上総介賢トアリ三月十七日祭ヲナス又京都清水ハ此處ヨリ移スト角倉某此ヲ執行ト口碑ニ傳ふ如何然ルニ先年ヨリ四度此辺ノ田畑畔ヨリ古キ陶器ニ入テ埋メ置キタル銭ヲ掘出シタリ別記ス此等モ合セ考フベシ又大草岩トテ天ニ聳ヘタル大岩石アリ景地也

○城ノ平　平山上村

平山城ハ鶴田家ノ出張城也古城ノ列ニ出ス此ニ客ス

○構屋敷　同

是ハ鶴田家之在番屋敷也

○天下橋　同

是ハ出張城ノ構ニテ鶴田家ノ普請場故ニ百姓ノ

ハ構ハレ故ニ云いる事也

○堂の谷　同

平山上村西山ノ立川大光滝迄八丁四方大光山常楽寺トス寺ノ境内也ノ後修験ト成リ今ノ三宝院末大光山不動院是也先年ハ堂ノ谷ニ寺有リ一ノ立川村境限リニ成リ志州公代御目見修験大坊ノ内也

○潜門岩　同

潜ニ作仙

村ノ北ニ當リ鳥帽子ノ東ト云所ノ山ノ入口岩屋あり岩ノ上ヨリ水流レ落ル四畳半斗岩窟有リ

○田の岩　同

坂山奥ニ岩屋アリ凡八畳敷有之乱世ニ時分家ヲ立ル
野ヶ中町人家少キ所之者盗賊ヲ防ル夜分ハ此岩窟
ヘ隠居候由申傳

高麗人屋敷

同

家尾部田ニ其屋敷後畑ヶ也其先祖両人ヲ佐久小七
ト云兄弟有之御検地帳ニ佐久名ト云有リ其末裔近
世藤久ト云者受持御検地帳佐久名所持シ者藪野除
ケ廿四人重左衛門ヲ始名の頭ニ今ニ霜月祭リシ前日
會合致候當時畑ハ多ク十七貫分也山ハ又七分也此
山ニ高麗ヶ持渡シ天神宮ヲ安置ス我朝の天満宮ニテハなし
天神ト唱ヘ霜月ニ祭日有之此祭田十歩畝町ヶ藤
久所持候ヲ神酒料ニ備ヘ候平山村奈哲十郎母父化

四丁卯年八十三歳ニ成ル此ヲ其母シ幼少シ時高麗祖母
母ヶ之ヲ水ヲ持テ少シ宛の米ヲ合力受尾部田
中ヲ廻リ是ヲ集テ彼ノ高麗天神宮ヘ御供ヲ備ヘ候
由ヲ哲十郎幼少シ時聞傳ヘリ此高麗祖母の極ヲ少
シ時ニ其親ヶ代ニ朝日本ヘ渡リシ者ならん茅小七
ハ獨身ニテ子ら ら野秀吉先祖ヘ懇リ相果ルヶ也此
持地田畑山尾部田ニ有之今ノ秀吉持分ヶなる墓所
も同所ニ有右天神山ハ今又七支配ニテ大なる竹木
有リ他人ヶ取ヲハ家ヶ有リヶて山ニ入込者なし家
氏一統ヶハ差支なし墓所ハ不残秀吉より掃除寄
ゆへ候ハ小七墓ハ不残秀吉より掃除寄
ゆへ候ハ小七墓ハ不残秀吉より掃除寄

乾鼓岳　日鼓城トモ

同

是ハ嶽類ミ町ハ田代嶽と出ス然ルニ俗ニ云傳ふハ
渋谷金王丸此所ニ住居セと一ノ堀切二ノ堀切とて
二間斗ツヽ堀切有りと絶頂ハ少シ平膜ハ馬乘馬場
有り是ハ古ハ鎮西八郎爲朝の馬場と云佐嘉領安古
ハ爲朝の居所跡今御所と云也黒髪山大蛇退治有り
武雄の先祖後藤大和守勅宣ミ副士ニて一ノ矢後藤
大和守二ノ矢爲朝八人張ミ子ニ形八寸ミ厂股ミ根
を用ひて射ヽりと轉び落る所を梅埜村座頭通リ懸
り育ら給びに賊ち止メをさヽ一矢故育目今ニ九寸
五分ハ御免と申事夫ハ初リヽと也右八寸の矢の根
石の祠ニ入川内村有之
私ニ考渋谷ノ金王丸ハ源義朝ノ臣也何ミ為ニ此
所ニ下りヽや正しき説を不聞尚実を乱し得ざき
爲傳来ル通り此ニ記ス
爲朝鎮西ミ任有る事虚説ニハ有ルまし然レ共大
蛇ノ事余り御山ニ云ひ傳へヤリ如何大蛇ハ今
ニも居ル所有らん是又前同断

上戸山　上戸城ニ云

何事ぞ其訳傳えれと上戸と云物ノ形ニ似ヤヽ故謂さ
る所
此辺ニ馬乘場ト云所アリ屋鋪跡ぞ本山村ニ塚所也

櫃ノ谷焼　同

栗ノ原ハ素焼竈後也本焼竈ハ波瀬道上ハ高尾と云畑也坂下ノ方坂道ノ所也波瀬道右ノ方櫃ノ木有リ上ノ平ラノ方細工小屋跡と申傳ノ諸所試ノ為焼て長く相續シタル所ニハ非ずと聞也土取場ハ浦ノ原左右ノ山と申傳

玉ヶ橋　田中村

田中城ノ時分橋ノ也波多川上徳居館園ノ田中田原に流出夫ノ坂橋下流通今ノ小川筋本川也田中ノ城引ヶ其後徳居ノ前ニ堀替ルト也

龜ヶ岩　元紘掛岩ト云　山奏村

先年長崎御奉行牛込忠左エ門殿御通ノ節山奏村ニ紘ヶ岩と云有之是を御覧校成御領主加賀守殿を祝ひ一首を詠せらる

千代萬ル我行里ハ松浦なる岩屋の袋代所なれん

此歌扇子に書付ちきて千々賀組山田村庄屋仁左衛門御案内致シ居候る校下之而後此岩を龜ノ岩と可唱ノ仰ちき候也

波多川　西川筋

井手野畑河内ノ流出ル川ヲ云也ハ川原橋こて松浦川と落合流れて玄海ニ入

白糸瀧　新木場村

哥ニ　おの川ゑ水れ早くみやゆらんくるれ人もあるき

白糸の滝

四行

嶋嶋瀧　平山上村

乾鼓山頭安谷隙。潤辺萬翠鬱崔嵬。龍巖相對鵠雄勢。疑見銀河水落来。男瀧ハむゝ木場紅辰ヶ北西ノ方ヘ流レ女瀧ハ午ノ方ヶ子ニ向ヒ流出ル女男ノ間上ハ一丁斗瀧下ニ流レ水一所ニ成る谷川ハ一ツ也

漁浦六ヶ所

牟形浦　京泊浦　唐津領
黒塩浦　福田浦　牛嶋浦
湯ノ浦　以上唐津上浦と云
以上唐津下浦と云
右者古代漁浦と云六ヶ所也
後世漁浦唐津領ニて四十三ヶ所と云其内今世事う
漁スル処如左
仮屋浦　京泊浦　菅津浦　呼子浦　浅戸浦
外津浦　屋賀浦　高串浦　晴氣浦　駄竹浦
湊浦　相賀浦　唐房浦　神集島浦　妙見浦
瀬島浦　友ノ浦　向嶋浦　馬渡浦　加唐浦
小川浦　畑津浦

有田陶器山　松浦郡　有田郷

秀吉公名古屋在陣之時高麗人ヲ召テ陶器ヲ焼メラル
多久長門守安順高麗金江ノ人ヲ連レ来ラル、由有
田ニ今金ヶ江氏ノ裔数多在リ歴然タル其末也焼物
竈場所如左
泉山　大樽山　中樽山　本幸平山　上幸平山
白川山。赤繪町山　岩屋河内山

大河内山　松浦郡

炎山ヨリ獻上御用物青磁大ヒヾ櫛形等燒出ス也

廣瀬山　同

大坊山　同

黒三田山　同

外尾山　同

伊万里三伊岸三今里　松浦郡　船津

炎浦諸所ヨリ之船津也有田燒物炎所ニテ荷ヲ拵ヘ諸国ヘ廻ス也矣類ハ松浦郡諸浦ヶ船廻ー壹州其外ヶも廻ー来ル所ニテ夫ヨリ肥前国所々ヘ駄送ス也故ニ至テ繁華ナル所也炎所ニ盤ノ名物アリ

楠久浦　同

楠久鯛ト云名物ナル共鯛ハ松浦諸浦ヶ船廻ー来ル

田也

山代郷　同

炎所小城侯ヒ御領分也小城ノ藩士田尻監物知行所也豊臣太閤ヨリ田宛氏拝領地トス

立ヶ所渡場　立島

戸岐　樫之浦　岩瀬浦　田浦　猟尽浦

右先年ハ五ヶ渡場ト云

只今ハ渡場浦ト改ル

玉ノ浦鯖網　廿二帖　円

譬ヘハ鯖を捕ル事都合一万喉有之受得ハ一歩増千喉御蔵納残九千喉代ヒ内ニ而雑用を辨シ残二ツ割ニテ一ツハ御蔵納一ツハ網方　円

同浦鮪秋支配奉行見分ニ而矣数二ツ割一ツハ御蔵納一ツハ網方

切通井樋　唐津　黒川浦

寺沢公初而作ル中四間流ル十三間

菖之浦　平戸

舟津也

田平　円

城下ヱ渡ル舟津也

飛鸞島　円

城下ノ島則平戸島也

龜城　松浦黨峰公創造之城也　円

御厨　舟津漁人繁華也　円

此浦人筑前ノ行宮ニ漁ノ品ヲ調タルヲヘ御厨ト名付タリトナリ

屋賀　同断　円

兄部多　同断　円

志佐　駅次人家多　円

今福　松浦公御分家采地　円

松浦氏ト八平戸城主ヲ指スカ今福松浦ハ嫡流ノ

河内浦　平戸島ニアリ　円

津吉　同　円

城
松浦黨峰公創造之城也　円

厨
舟津漁人繁華也　円

此浦人筑前ノ行宮ニ漁ノ品ヲ調進シタルヲヘ御厨ト名付タリトヤ

賀
同断　円

多
同断　円

佐
馬次人家多　円

褶
松浦公御分家末地　円

松浦侯ト八平戸城主ヲ指スカ今福松浦ハ嫡流ニ

浦
平戸島ニアリ　円

吉　円

青柳村
青柳神社の記録に作れも今福松浦氏支族なるか如し
[illegible]

七ノ嶽　立島　岐宿村

王ノ浦境ニ在リ七ツノ峯アリ壽永ノ乱ヲ逃レ平家ノ落人ノ古墳ト云

西高野　同　大宝村

少々ニ大宝寺ト云寺アリ真言宗也

御嶽　同　崎山村

野山也南ノ方ニ遠見番所アリ

十二川　同

七ノ嶽ヨリ流レ出ル一筋ノ川ヲ十二度渡ル故ニ十二川ト云

鑑山瀧　同　岩瀬浦村

瀧ノ高サ三十丈程アリ此所ニ鑑山寺ト云洞家禪ノ寺アリ

男女島　立島アリ

楢江城　同　海洋四十八里ニアリ此二島無人

楢江城下ヨリ西ノ浜ニテ漁場アリ

楢江ヨリ漁ニ行ク也春分ニハ鰯漁ヲ捕ル上松浦ニテハ沖アジト云秋分ニハ鯖漁網漁也此島ニ桑木生ス女ヒマコブト云名物也此島ニ産也

三井樂　楢江城ヨリ北ノ方

鰯漁　其外産物立島若宇久島ニ生　鯨漁　女男島ノ産　来木生ヒマコブ

楢江城　同断

立島　同領　宇久島ニ居住セラル天正年間宇久大和

守朝鮮ノ後ニ小西摂津守ノ先手トナリ同所ニテ討死セラル此時薩州侯ト信義ヲ結ハレ以後非常ニ堅ラハ狼烟ヲ上ケタハ島津家ヨリ枚ヒノ幣ヲ出サル、ノ約島津義弘ト朝鮮ニ於テ大和守約セラルヽト云今ヲ裙江城ニ居住シ氏ヲ五島ト改メラル嘉永二乙酉年異国防禦ノ為東都ヨリ免許アリテ裙江城ヲ築ヲ是ヨリ深江城ト唱ト也

平戸領	小値賀	野崎	津吉	御崎
五島領	有川	宇久島	柏浦	椛部大島
唐津領	小川島			

松浦郡鯨漁場

以上九ヶ所　松浦

大村領	外松浦両郡同	後杵両郡同	松浦郡也	平島
平戸領	壱州同	前田	松浦郡也	江ノ島
		勝本（カガモト）	後杵郡也	曙ノ浦

以上三ヶ所　松浦　後杵

以上二ヶ所　壱州

合十四ヶ所

内十一ヶ所　松浦

一ヶ所　後杵

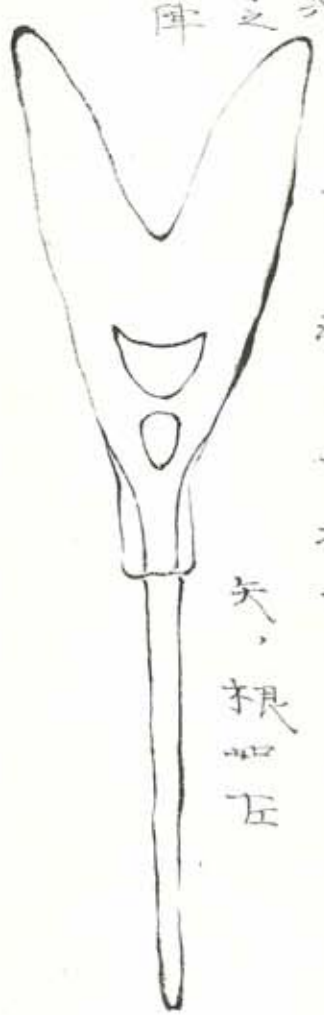
二ヶ所　壱州

伊万里城
唐船城
山城城
桃川

伊万里
有田
山城郷
桃川村古蹟咏ニ出

陣之尾

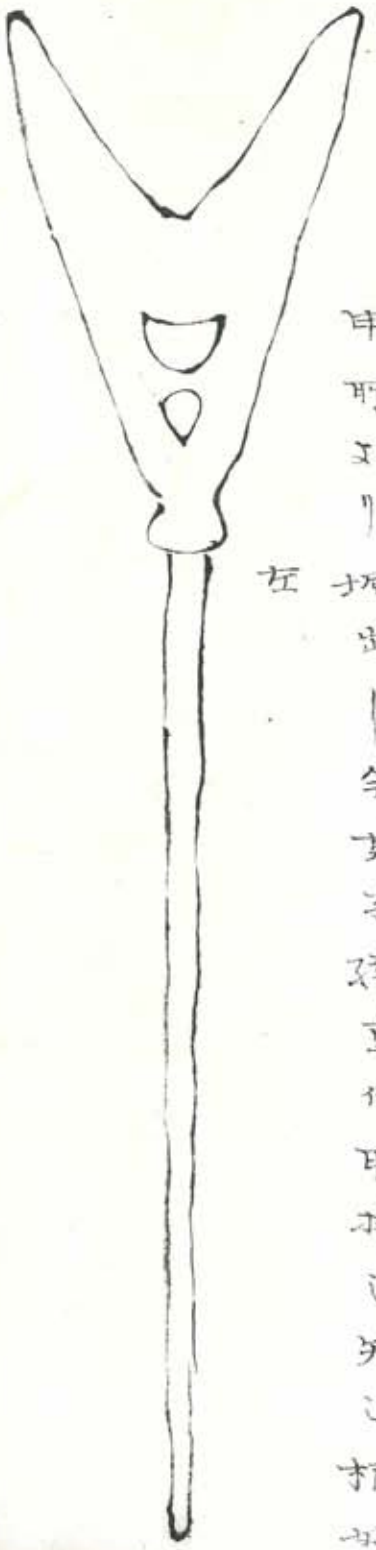
是ハ天正之始實田城譜造寺之交戦之陣跡也



牧瀬村

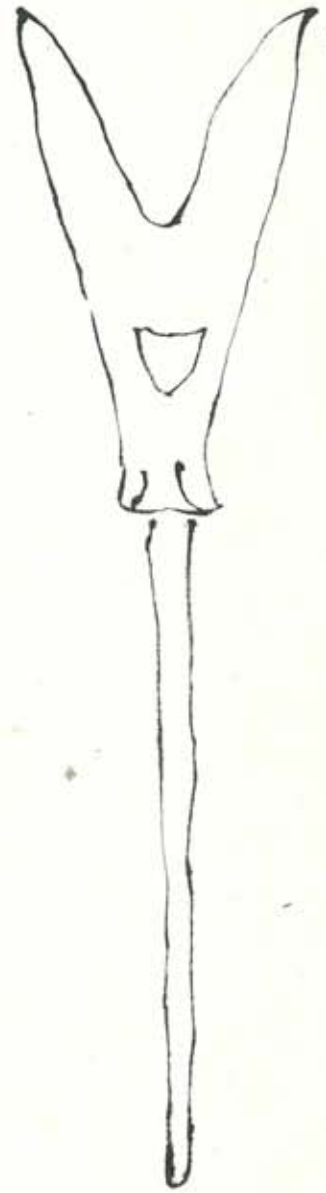
嚴木村喜代藏寛政二庚戌年陣之尾ノ畑より掘出今其子孫外所持也

矢ノ根如左



牧瀬村百姓千助天明年間ニ右陣之尾ノ近邊麻畠ヶ中所より掘出ス一今其子孫重作所持ス矢ノ根如左

中島村郷足輕加茂竹助と申者右陣之屋敷方野地ニ番請ミ節
拾ヶ得ハリ天明年中ヶ今其子孫半ヶ時傳ヶ伝ミ根如左



獅子城ノ近邊沒瀬村城平ヶ中所ニ有 同村ガ一系良吉ト申者親
宝暦年中ニ堀出鉄今良吉所持如左

嚴木村

一宝永八辛卯年 改元正徳元年ト九 二月廿七日 嚴木村大庄屋三塩庄藏
代普請ミ節田ミ邊ヶ鉄ヲ入ミる壺を堀出其訳石ニ刻ミ有

大谷

同所

庄屋保利鉄三郎代
一嚴木村百姓休助 天保四癸巳年三月六日 右大谷ミ田ノ畔ヶ古き焼物茶釜ニ銭二
貫六百文程入ミるを堀出ミり其段御屋中ニ笑処右之者兼ふ正直ミ者ニ由
奇特ミ事也右銭其者ヘ被下ミ御沙汰也
銭ハ唐銭多ク又文字不分明成もの多ク永樂通宝も
交リ有リ寛永通宝一銭もなし
一出焼ミて形圓ノ如一色ハ出中ニ久ク有て分りか
ミ一黒色の如一焚ミる物ふてこげ付底黒く見
る底破れ用達ぬ故銭を入ミるものなるべし
拵ふミ紋形一つ有リ凡ソ三升程入ヘ

同所　嘉永四辛亥年正月廿五日　嚴木村百姓茂平銭壺普請ゝ節堀出

壺之圖　土中ニ年を経ら新故ハ素燒ゝ如ー色古色の色に似ら丸ッ水二升程入ー

次銭一文

次銭五十文

次銭九十文

文字不分銭二貫二百三十七文

合銭二貫三百八十文入　正屋保利書六代

右日田御役所ゝ御届申上候ハ地主茂平ゝ被下置候

同所　同年正月晦日　地主茂平田ゝ畔より堀出

壺之圖　凡水三升程ゝ入ー前同断素燒の如ー

次銭一文

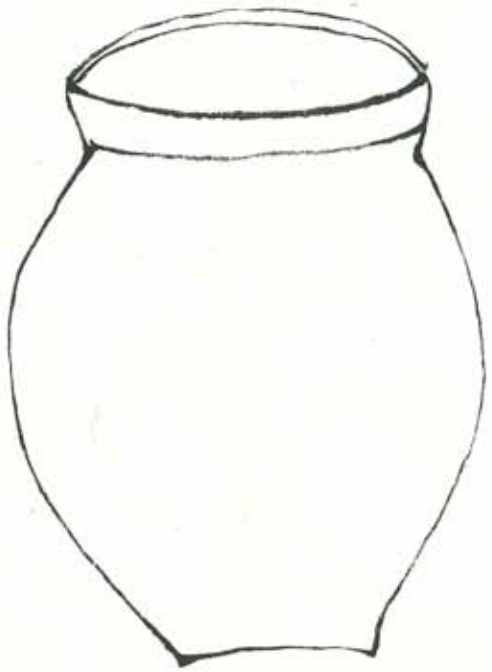
次銭一文

次銭一文

次銭一文

次銭一文

次銭一文



次 文五十六錢

次 文一錢

次 文一錢

次 文一錢

文字不分錢四貫二百九十三文
合錢四貫四百六十二文

次 文一錢

次 文一十錢

次 文三十八錢

右日田御役所ニ御届申上候所地主我平ニ被下置候

松浦郡古跡考書脫落ノ条

垂綸石　　玉島川

皇后御立石　共云釣ヲ垂レ玉ヒシ石　元和ノ度洪水ニテ見エサリシヨリ近年再ビ出事ヲ碑銘ニ書ミテ建之銘ニ云

筑州山口豊士諱甫撰文并篆額

神后征韓。賊勢太張。惟霊任官。雄次訓訪。寘祐所護。光鋒莫當。功成誅師。海御膺仰。遂在延暦。三祀戡平。分邑開峙。猶不翼鬼。其疾邦賊。施及蚘慝。壇砂一揮。毒類立殛。其霊恭々。民賴其力。維文政八年歳乙酉秋八月二川相近書

新島森　松浦郡　大村

古松浦記ニ有　哥ニ

玉島や新島森ハ駒留てたづくもとぶ行川上の里

舟坂山

同小城郡多久ニ有りと云是ハ長者屋ニ近き舟山の事

名又巖木村と内ニ舟坂と云所有何きゝ審なら尺松浦

記ニ出さゝる儘茲ニ記

名古屋城年陣所

天正十九年辛卯十月上旬諸侯名古屋ニ御下向城普請有

之文禄元年壬辰三月秀吉公御下向軍勢二十一万五千五

百七十騎高麗ニ被指渡同三年甲午秀吉公御帰陣諸勢慶

長三戊戌十一月帰陣都合三十万七千九百八十五騎右之

内十万二千四百五十騎八名古屋ニ在陣し勢也

御城　海面ヨリ　三十二間一尺五寸

海ヨリ池迄　十二間一尺

池ヨリ三九迄　十四間三尺六寸

三九ヨリ木城迄　五間三尺五寸

木九　東西五十六間　南北五十九間

二之九東西四十五間　南北五十九間

殿守臺有り

三之丸東西三十四間　南北六十二間
雄擊曲輪　東西廿六間　東北廿四間
彈正曲輪　長九十五間　横四十五間又三十間
水手曲輪　十五間四方　今ハ水無し
山里曲輪　東西百八十間　南北五十間　或二十間
惣曲輪　坎余迄合十一
城廻り十五丁　城ニ入口五ツ
城廻り石垣崩井戸壊し水なし
池長サ百六十三間　中十一間ヨリ三十一間迄

名古屋諸矣陣所

一 大納言徳川公　海士町上　竹之丸
三 本多　平八　内町先　方カラ
冨田　左近　天神近町
村上　周防守　内町　宮口
真田　安房守　内町下　館辻
浦生　飛彈守　麦藁町後東　白城付　中尾
氏江　内膳正　内町下北方蹴付　中野
内府　公　内　寄
山中　橋内　内　加藤
佐竹　修理　内町在屋ニ無ケ　北条
堀田右衛門尉　内　町　島津

二 大久保七郎右エ門　内町　右里
四次筆順末内衛　大野　修理　方カラ上　辻ノ上
志摩守　寺西　志摩守　畑ヶ中後　右馬
北条　美濃守　麦藁町ノ　寺坂
伊藤　長門守　内　町
加藤　出羽守　内　町
氏江　志摩守　内　町
長東大蔵太輔　白寄近ク　いのづら
大谷　刑部　波戸前　奥見
北条　祐五郎　内町後蹴付　ウタ
薩摩守　内町西蹴付　ウ田

次書有、外別記ニ在
新庄新三郎
佐藤屋

相馬
九鬼
牢都宮
時田
高橋
三沢
時田
浅野
多賀
浮田
堀
八幡宮
本陸侍従

長門守
大隅守
三郎
之外
正隠
刑部
角矢
鷹河守
迅雲守
掌相
火水郎

日野西官尺
日野近衛少将殿
春日
春日河内守殿
木下
川尾
日野、汁
北条
北条
北条
卜部
卜部
清水
清水
日野

平
田
汁
田
尾
汁
崎
崎
ニ
汁
辻
ノ
辻
人
町

上
坪
浦
海
江
海
海
海
海
海
海
海
海
海
海
海
海
海
海
海
海

相
水
須
戸
百
河
大
泉
宝
宝
宝
宝
宝
宝
宝
宝
宝
宝
宝
宝
宝
宝

越
賀
江
内
和
川
島
口
口
口
口
口
口
口
口
口
口
口
口
口
口

後
河
山
等
泉
加
加
加
加
加
加
加
加
加
加
加
加
加
加
加

宰
波
城
小
川
中
賀
藤
藤
藤
藤
藤
藤
藤
藤
藤
藤
藤
藤
藤
藤

相
守
寺
侍
寺
寺
寺
寺
寺
寺
寺
寺
寺
寺
寺
寺
寺
寺
寺
寺

日野西官尺
日野近衛少将殿
春日
春日河内守殿
木下
川尾
日野、汁
北条
北条
北条
卜部
卜部
清水
清水
日野

平
田
汁
田
尾
汁
崎
崎
ニ
汁
辻
ノ
辻
人
町

日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野

官
天
鳥
立
立
立
立
立
立
立
立
立
立
立
立
立
立
立
立
立

下
原
屋
立
立
立
立
立
立
立
立
立
立
立
立
立
立
立
立
立

日野少将殿
小屋本ヲ渡ル道ニ立
宣天道ノ所、白藤ノ山
大条道ニ立
日野下総守
日野拓山ノ内
日野拓山内ノ内
日野拓山内ノ内
日野拓山内ノ内
日野拓山内ノ内
日野拓山内ノ内
日野拓山内ノ内
日野拓山内ノ内
日野拓山内ノ内
日野拓山内ノ内
日野拓山内ノ内
日野拓山内ノ内
日野拓山内ノ内
日野拓山内ノ内

相
木
水
水
水
水
水
水
水
水
水
水
水
水
水
水
水
水
水
水

宮
本
ヲ
ヲ
ヲ
ヲ
ヲ
ヲ
ヲ
ヲ
ヲ
ヲ
ヲ
ヲ
ヲ
ヲ
ヲ
ヲ
ヲ
ヲ

日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野
日野

相
千
千
千
千
千
千
千
千
千
千
千
千
千
千
千
千
千
千
千
千

馬
鬼
都宮
猪
猪
猪
猪
猪
猪
猪
猪
猪
猪
猪
猪
猪
猪
猪
猪
猪

長
大
三
刑
刑
刑
刑
刑
刑
刑
刑
刑
刑
刑
刑
刑
刑
刑
刑
刑

門
隅
郎
部
部
部
部
部
部
部
部
部
部
部
部
部
部
部
部
部

守
守
之
少
少
少
少
少
少
少
少
少
少
少
少
少
少
少
少
少

稲
金
石
立
羽
寺
小
里
羽
羽
右
之
分
如
在

兵
部
法
左
左
忘
雲
甲
豊
豊
山
口
内
之
松

庫
少
印
近
近
野
守
斐
後
後
山
口
内
之
松

豆
輔
法
近
近
守
守
守
守
守
守
山
口
内
之
松

浦記ニ有ル

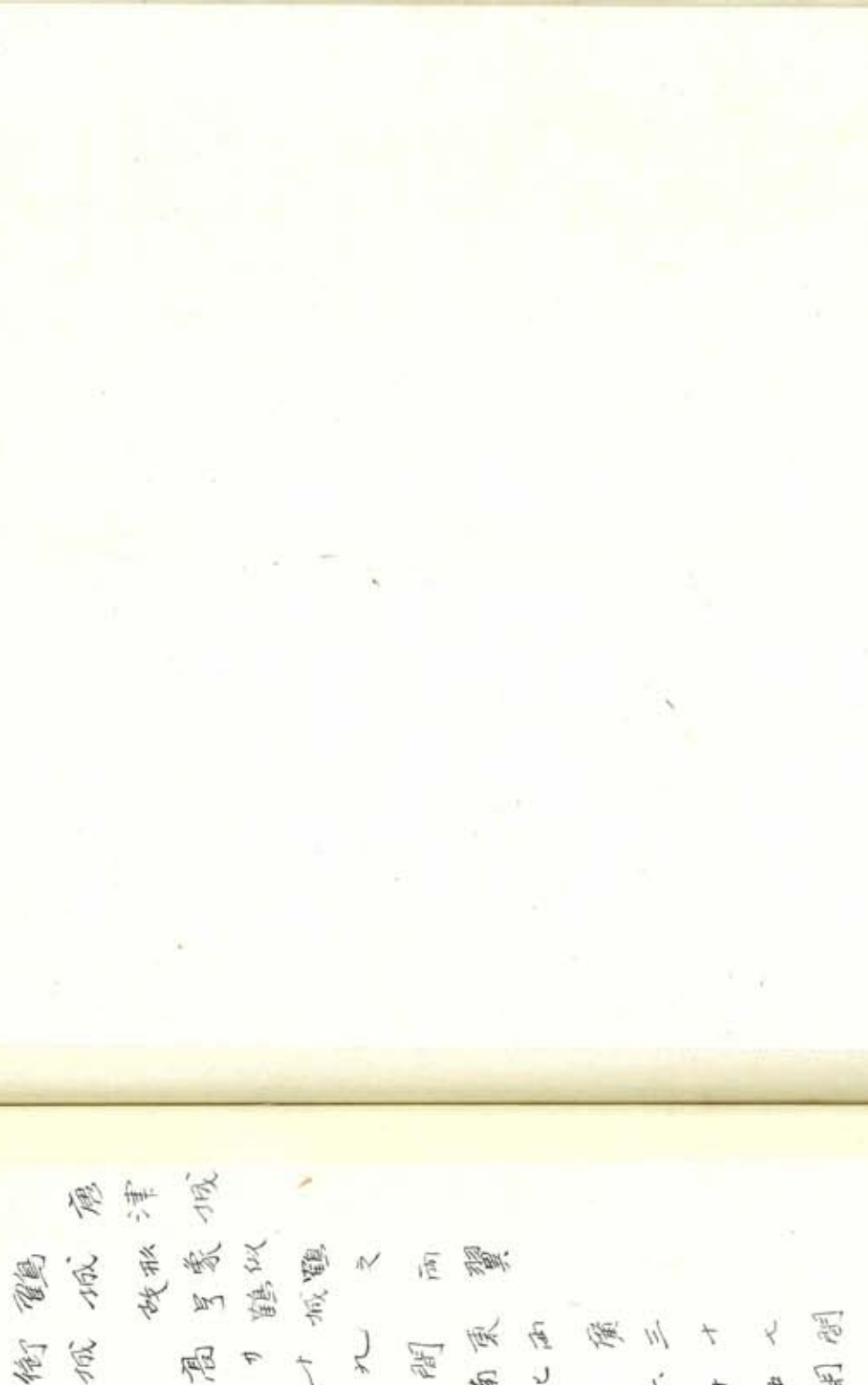
別ニ名古屋村ニ有書記ニ在ニ無

粕谷　内膳正　いけぞり
宗　対馬守　ちくさ侍
長官紋部宮内少輔　ひやけ田
前野　但馬守　ぐらんん
水野　下野守　大戸浦
南部大膳大夫　長田浦
田中兵部少輔　下泊り
竹中　丹後守　ぢぞ地蔵
島津　又七郎　ぐらじへて
種ヶ島　大膳　籠毛
秋月　甲斐守　うりうり
大村　新八郎　ふかるた

名古屋越前守　兵庫屋町
池田　輝政　中矣見
藤堂　和泉守　八床大平
松浦刑部法印　くんぬま
津軽　左京亮　ぶせさき
土島　若狭守　おぐき
毛利　兵部正　まるぐ勇
有馬修理大夫　成佛ノ浦
相良宮内少輔　渋戸大平
増田右衛門尉　まるゑ
生駒雅楽守　田中
速水甲斐守　こだ〳〵ま

福島　正則　わきぞく
片桐　東市正　ぐるぐ
毋羽　長重　ぐるや
小笠原信濃守　中その
久留米信濃守　ぐるぐ
牧野兵部大夫　よこぐけ

木村　常陸之介　りけ上
毛利　輝元　下ふスキ
平野　遠江守　畑中
加藤　左馬之介　ぐるんさき
脇坂中務大輔　よこぐけ



町数　本町　十二町

本所　呉服所　八百屋町　田町　木綿所

桟木町　京町　刀　所　米屋町　大石所

紺屋町　奥屋町

外

塩屋所　東裏所　十人所　東寺所　西寺所

新町　牙林所　江川所　船頭所　坊主所

水主町　棚　所　八軒所　弓之所　下所

鷹匠所

鎮後政親

天正十九辛卯年秀吉公朝鮮之後石屋御石陣文禄三甲午年諸將帰朝トナル因二月九日波多三河守領公流罪ト
ナル依之波多旧領松浦郡草野領併ス松浦郡合八万三千石寺沢志州公相領其後　神祇ヨリ天草郡四万石相領合
十二万三千石トナル

志州公唐津拝領初田中鶴村城ニ居セラル郷中所々新田御普請及ビ元和二丙辰年設多草野旧領再検地等有之唐
津城御普請石屋城并御陣所之材木拝領ニ付咸宜有之
爰能子嶽ハ境之之後必殊ニ石屋ハ船廻リ制度理也唐津
御城山ハ満島ヲ以満鶴ヲ繕ヲ毎ニ山也是ヲ堀切リ松浦川
ヲ流シ城山ヲ成ル因テ故此所ヲ切ヲ北ヲ也故ニ二之門
ヨリ城山之方ハ鏡大明神ノ森地也元来松浦川ハ久里村

城渕より山邊の方を流れ北へ大なり二筋になり一筋は今二ノ門と前を流れ堤御門ノ元を通り波多川へ魁塚より秋多田村中を流れ通り唐人町へ出る又神田川と長松寺より直に江川町二丁之間を流れ出る右之通川々流出候

今之川筋に堀流し松浦川と波多川筋川ハ皆本城と満島之間一所に流れ通る横に成りし也神田川も今の川筋に堀替皆御城用心堀と成る右満島山に神仏と社有之也

所々へ御移に成る

一天神社　大石地蔵に御移し大なり天神山と号ス

一松浦下総　別當雲持院持仏堂に御移し

一八幡　満島へ御移し

一津守観世音　同所へ御移し

一雙野權現　大石山へ御移し

一英彦山權現　同所へ御移し

一草野不動　別當聖持院持仏堂に御移し

右七社へ米屋石宛

七石被下置ト也

○志州慶長津拝領後焼日

一志州公御右屋城拝領慶長二丁酉年也

一右屋給高御書附御直判に而被下置慶長十三戊申正月三日ト有之

一元和二丙辰年波多草野旧領再検地有之

一寛永十三丙子年大庄屋役料に役高百石宛被下置則態次三郎右エ門殿御書附ニ有之在之通

覽

一村々組合御定ニ付而惣庄屋相交ル萬事惣庄屋申渡ス儀少も相背間敷ス不依何事申付ル御用之儀如何樣成る事ニ及共先ツ相調可申ス若急ニ其頃仕ル者と其以後理非之穿鑿仕樣子可申聞ス事

一惣庄屋役儀之事今迄之外ニ其村之高百石ニ付拾ヲ一ヶ月ニ三度宛組合之村々へ廻り其村之庄屋へ萬事油断不仕ル樣ニ可申渡ス若小百姓一人ニても無断つぶしル八、惣庄屋并庄屋ハ曲事ニ可申付事

一株田七ツ一ル儀時分延引ル八、惣庄屋より其村々庄屋へ堅々催促仕耕作根付置仕付草水致油断御年貢未進仕ル八、曲事可申付ル并勝庄屋何事ニよらず申談ル儀八惣庄屋ニ可相尋ル附公儀御用之儀ハ不及申ニ事

一御役所之儀下札出ル毎ニ其日小百姓共ニハ不残可申聞ル物成下平地其年之立毛ニ應シ善悪申ハ無之樣ニ其村々之庄屋百姓申寄合相ハ可申ル若互ニ申分有之ル八、組中之惣庄屋へ申聞可相濟事

一立毛善悪之相應ニ ニ ら ー 中ニ ニ 百姓不依大小若未進仕ル八、為其村中皆濟可仕ル歎願ハ より組中ハ為惣庄屋村々庄屋百姓ニ堅可申聞ル於不得止ハ曲事可申付事

一御年貢納仕ル儀組中之百姓若見合だまり申者ル八、其村庄屋へ申聞其ニ為惣庄屋へ可申聞ル見隠ル八、可為曲事事

一御普請所丈分之所ハ他組より越丈可申付候組中之村と
して嚴成る儀に候ハヽ常々讃可申候若捨置及大破候ハ
ヽ可為曲事

一酒肴菓子に至迄村々ホ而賣申間敷并諸商人為ゟ少賣ま
んじゅうやくげ壹人も村中に入申間敷候若入候ハヽ組合中
より見付次第總庄屋へ相屆可及其沈沙事

一神事祭り他村より客人一切呼申間敷候尤賣成儀今停止
候事

一百姓縁遠之儀其村名主庄屋に相尋約可仕候祝言之砌
互に祝儀可仕と存候ハヽ錫一對奥類之為少野菜城外遣
候ハヽ其村々庄屋可為越度事

右之条々少茂於相背ゟ曲事可申付候城外迄其時分申付
候御法度之儀諸事可守其旨者也仍如件

寛永十三丙子八月二日

熊沢三郎左衛門 ㊞

大川内庄屋

十五左衛門殿

庄屋給高御書出左之通

一高何石何斗

右ゟ為庄屋給屋敷作職ゟ以遣候也

寛長十三戊申正月三日

志ヶ守 ○ 花押

何村庄屋誰

右之通横紙御書出被下

村々庄屋右代ゟ相續之者ゟ所持仕居申候

一以前八正月二日御年頭申上奚處翌三日御用之儀有之奚
間罷出奚樣被仰付奚依之恐縮在屋不残罷出奚処右御書
附被下頂戴仕奚依之其翌年より所人々前後に成ル也
一江戸御参勤御着發之節八間所ハ御目見仕来奚處渡り
口より御船に被召奚ハ御郡中在屋共ハ被仰渡儀有之奚
間満船ハ罷出奚樣被仰付奚依之不残満船ハ罷出奚處其
支配之村高一厘掛り其年之毛付を以被下奚間扶持米
可仕由被仰付奚御船中故書付ハ其後御着發共に満船
に而御目見仕奚ハ樣之儀ハ格敢失ヒ奚故記置者也
一以前在屋御取立被成奚節波多養之窪人又ハ其所に而負
上百敷有被仰付奚然ル共何ハ不勝手之訳申上奚処在屋
高百ハ迄ハ作仕奚樣に依之右後高御用拾被仰付奚然共

不身上ハ作仕奚儀難相成訳申上奚依之組合之村々ヘ
リ一ヶ年に百人合力可請奚来支配之村ハ一年に三度
宿ヘ合力可仕由堅ク被仰付奚得共大久保加賀守樣御入
部被遊五十人に減し申奚
一以前ハ後儀御免被仰付ハ右ハ在屋敷田地之儀無相違所持罷在
奚就夫惣在屋居宅之儀自分修覆也座敷焼之間相抵湯
殿雨隠組合より修理致奚依之後儀御免之節ハ座敷焼
之間斜々ハ組合に渡奚由也組継ハ自分に家来を置惣
在屋より勤奚ハ後料米取奚由也組合より此為持奚得共
後米取不申奚然に段々組継相増奚ハ自分より為持奚ハ
ハ不勝手に相成奚に付組村より出用奚出来奚
一村々寄在屋組御書付ハ不申在屋有之奚右書附御書附御

渡被下度節様と不参候又ハ在屋敷引しと申也

一 元和年中御検地之節御頭分一同之惣在屋敷組合と惣在屋と定メル也其前方ニ御侍衆直ニ地方ヲ御取被成度ト長ヲ同じく申御頭分七人有之度由草野頭ニ五人有之度由

百姓共ニ御直ニ被仰渡度趣

一 寺沢志摩公御検地以後度々御巡見被遊在屋百姓共ニ被仰渡度

一 田地水賦之水口末世ニ至ル無相違様ニ可仕事

一 井堰其外用水溝末々共ニ遠変不仕大ニ可仕事

一 桃田郡境前村一本立置五ニ物言と無之様ニ可仕度事

一 前之定ニ通相可申事

一 當年作ニ入替度ハ、田畑共作ハ無相違先ニ可受取度畑共

ハ當年ニ可受取度作ニ出先ニ受取ハ、米物成上納可仕事

一 作主替り度時分開置度切畠其外仕置度品々ハ其田地ニ付可申事作ニ訳有之度ハ其田地作り不申内ニ持来り度ハ、無用之事

一 百姓共強々持地田畑入念作可申度弟悪敷作り無精ニお以ての怠慢可被仰付事附人儀曽て無用出精之立耕作仕身分ニ心能家ニ守り則ち第一之忠孝と可存也

一 惣在屋御用ニ付罷出度時分手代大達人宛交配之村ニ可申連度且又百姓共無異儀可相勤事附頭分中一名如何様之儀ハ乗馬ニ乗度節ハ傳馬之通りハて出可申事

一 勝在屋勤方之儀惣在屋ニ可仕哉惣在屋勤方那行度ハ

八雲会之座敷より為中間五二悪事無之様ニ可申含事

座敷御取立衣服之事

一衣類絹つむき近心次第賞罰

一鉢　鉢字書、鉢者とする

一脇指心次第

一袴

然ルニ御家中ハ罷出候節ハ必ず衣ニて出罷在候

一羽織

一馬勝手次第

新御使者被下候節ハ

一惣在屋方ハ御歩行衆

一脇在屋方ハ　御足軽

一百姓共ハ　御中間より

右之通夫々ニ應ジ御使者被下候心

一御廣間ハ被召出候節ハ惣在屋ハ御廣間ハ一面ニ着坐脇在屋ハ板敷縁側ハ入込燒物師鯨突鑓之柄師太庭ニ居申候

右ハ我等先祖大川野在屋相勤御頭分御逃見之節ハ御先衆被仰附度々廻り唐津住来ニ付ハ手ロ御明迫馬上御免ニ相成候御前ハ出度々御酒御相伴仕其上御衣服拝頂被仰付御懇命之覚書持傳候得共年数を経分り難候所ハ有之自然相分候分荒増写置申候

唐津頃縦横里数

東西馬渡島より天川山御境迄　十四里十八丁
南北神集島より川原御境迄　八里四丁

○御茶屋
深江一軒　吉井一軒
嚴木一軒　大川野二軒
呼子二軒　松浦田一軒

○御境目御番所
筑前口　赤坂
佐賀口　川原　後福丸
佐賀口　中島
同　篠原
府招

右四ヶ所御足軽より両人宛番相勤来候其村々役高二百石掃除炊飯夫御御引有之候處上井関防守殿ノ御代より定番一ヶ所ニ三人宛御立被成高五拾宛御引被成候

○古城番　名古屋　岸山　以上三ヶ所　侍番
津守番　呼子　侍番
○牧島番　馬渡　同
○遠見番　九ヶ所　前記ニ名古屋　加唐ノ両所有

神集島　馬渡島　向島
鹿家　殺　甲　黒　以上三ヶ所　足軽番
星賀　以上六ヶ所　塩　松之浦
割合出之

其所より番ノ為ノ扶持夫高ハ

○御高札場
深江　濱崎　京所　嚴木　馬場
大川野　徳　以上九ヶ所　人馬継箱
満島　黒川浦　星賀浦　名古屋浦　呼子浦　神集島

以上六ヶ所　津守府

加（一ヶ所）境守　合拾六ヶ所内一ヶ所

土井長代御除

●往還筋峠

橋峠　鹿家古井之間　中山峠　唐津伊志之間

駒鳴峠　藤田駒鳴之間　大尾峠　水雷行合野之間

池野峠　府招佐嘉領之間　合五ヶ所　別記二出坂　伊志より馬部ノ間

峠五ヶ所

○往還筋大橋

板橋　徳居村　板橋　養母田村　板橋　水主町　船頭町

板橋　奥屋町　以上四ヶ所　同二ヶ所　水主町船頭町　奥屋町　唐津城下ヶ道筋也

土橋　吉井村　伊志村　唐房村　徳居村竹有村ノ間　藤巻本村　本村之間

以上五ヶ所　合九ヶ所

○山嶽ト唱ル山

田代嶽　三八幡岳　乾敦山　坎岳　六分ハ佐嘉領　大川堅組　田代村

前山嶽　三有山　川原村　高帽子嶽　立川村

天山嶽　小城郡　天川山　馬川山　作礼嶽　三筑紫富士　浮岳　平之山

留嶽　吉井嶽　三

雲取嶽　湯村　岸嶽　鏡倉嶽　竹有村

同嶽　徳居村　飯盛嶽　岸山村　白木山　田代村

大野嶽　烟河内組　烟津村　井田嶽　四分佐嘉領　岸山村

御嶽　井堅尾村

山伏嶽　三玉女山　小城郡　砂石山　堅浦境瀬戸本場村

右之外高山雖有之山と唱ヘ分ハ限リ無之故略之

○御足軽

浪人等を以大川野御足軽三拾人御
浦多家鶴田家其外諸
取立給田五反宛被下長崎佐嘉領口守御被仰付小頭二人
大浦清助中島儀右エ門一組オ五人之積御書付被下千今
所持致候其跡大坂御普請之節小頭組子罷越候後小頭無
之候ニ付草場次右エ門小頭被仰付夫ゟり三人ニ罷
成候故次右エ門方ヘハ右書付無之候夫ゟり堂元小松崎
小麦聚烟津中島夫ゟ境目相守候様被仰付候鏡和多田
之儀ハ往還能御城下近相守り其外一同御城様之節御使
被成候寺沢家之跡御料ニ相成御上使ゟり城付之御足軽
御呼立都ゟ御城内不猥無之様可相守被仰付夫ゟり山廻勤
来候

○寺沢家庶津御改易後掟目

一百姓家屋敷加賀守公御代地立ハ被下入用以
第切手ヲ〻ハ伐取被
類出之ハ伐受様被仰付度旨井筒ヶ御切手

一正保四丁未年十一月十八日寺沢兵庫頭於江戸御
右無之依之慶安元戊子年御料ニ相成為御上使
津田平左衛門様　齋藤左源太様　御目付
備中松山之城主　水谷伊勢守公ニ五万三千石　兼松彌左衛門様
豊後竹田之城主　中川内膳頭公六万石　兵庫頭公之姉智
右御方々御出張御城御受取被成度
一慶安二己丑年大久保加賀守殿播州明石ヶ〻り唐津ハ御所
替被成度是ヶ〻り地方取之給人衆之依之郷中村々役書提

第新麻等一切之品一右ハ何程ヶ〻割賦年御馬飼料人足扶
持日雇賃萬事相極度

一右御代遠見番給代松貫井樋銀橋銀織多米御割賦ニ相成
度然ハ廻出形守度御代ヶ〻井樋銀ハ御免ニ相成度

一右御代ヶ〻り百姓樹木巻初秋永年行象相改帳面ニ付置
御用次第差上度

一大米村高ニ一分五厘掛之納之訳先百地方ハ御取被成
度侍衆知行所之百姓所々被召連及難儀度ニ付御雇賃米
差上可申旨一同申合其後一分五厘之米上納仕来度尤諸
国ハ大米有之趣也

一樹木代之訳前書ニ有之通菓物類ハ差上来度尤郷ハ
ヶ樹木無之村ニ有之小郷ハ大分有之村也有之方同ハ

付米不足之可申旨申上夫より上納仕米麦夫故村之大小ニ不拘米四升宛を極申候

一名頭御立之訳志州公御巡郷之節百姓中へ被仰付候儀有之節村中不残罷出候儀難儀可存候被思召候後村々共百姓の中心得宜敷名頭を撰名頭を申後を立置御用之節不残寄合ニ及不申旨被仰付候儀之村々共名頭後相始候

○御代々御城主、御入部嘉例一萱組より　鳥目壹貫文宛差上候大小在屋御目見被仰付候

○焼物師ハ御茶碗差上候

鍛冶師ハ御鎧之柄差上候

○在屋相續之事

一御領分惣勝在屋志州公御取立ニ相成候以来兵庫頭公御代迄御領分ハ一人も替り不申候若し稀ニ後儀不叶之者御願之上替候者ハ居屋敷田畑無別条致支配候方一不届者後儀御免之節も居屋敷田畑被下候

大久保加賀守様御代在屋之中ニ重罪之者有之御逐放被仰付其後新在屋ニ被下候例不相成漸々交代相始候

大川野惣在屋十五左ヱ門片目ノちんむを兼て御免之通大手迄馬上度旨御前へ御相伴被仰付裏冬之御衣服頂戴被仰付候時御前ハ扇子ハ程と云家を御書被成狂歌を一首御詠一被下候其扇子出ず子迄年々無之候

○嚴木村惣在屋相勤居申候次郎右ヱ門儀先年朝鮮陳之節御境目固ゝ申候ニ付加藤清正より書出之勘状所持致候

先年長崎御奉行牛込忠左衛門殿御通行之節山茂村孫ゟ
什器を見て御頭を被一首を詠し御案内山田村庄屋仁
右衛門へ被下候
子代菊保菊紋星ハ松浦殿御紋ゟ拝領之
御代菊ゟ
同後坊岩を鑑ゟ岩と可申由被仰候
○
苗ハ筆不利ゟ有御中ハ無之御検地之時分山本村心月
寺住持ゟ頼水帳御出来被成候由其節御褒美ニ寺之持地
之位ゟ下ゟ被下候由也
○米壷ゟ松御代ゟ　ゟ方様ゟ唐津御城ハ御預置ニ相成
京松平和泉守様御代ゟ三俵一枚ニ相成候
大久保出羽守様御代百姓大役ニ困窮ゟ為ゟ被開召
久里鏡和泉田土手普請御手人ニて被仰付候并御家中給人
衆へも百石ニ何程宛ゟ夫役被仰付候
○延保五丁巳三月ニ被仰付候ハ四月下旬ゟ役人郷中へ
一切御出ハ不被成候并御廻状御出ハ不被成候ゟ一息用
有之出ハ申時ハ手人ゟて可差遣旨依之根付耕作出精可致
旨被仰付候
四月五月ニ至て在屋唐津へ罷出申間敷候人足賃ニ相成
候自然無據用事有之候ハヽ右両月ゟ手人ニて罷出候
用被仰付候

唐津領産物

黒岩　茶
石志午房
志氣一ツ栗
名古屋海鼠
岩屋松木
佐里木綿
赤木大豆
砂子松露
唐房海苔

玉島　鮎
廣瀬　葛
奈浦川　鯉
七山　竹
大川野　鮒
嚴木麻糸
滝　鯛
大村　紙

岩屋杉苔
黒頃　蘚
平原　米
樫峯焼物
俵原生姜
和多田胡瓜
伊岐佐猪
丸ヶ山排笑

山本大根
今村　鮒
湊　麥
大村川白魚
馬渡　馬
德居大葱
鹿家蕎麦
畑津　鰯

○墳墓

前三州大守大納言大居士　慶長三丁酉霜月吉日　入野村

波多三河守源親公墓一族ノ人柄塔ノ勢逆主シテ祭ル也本墓所御厨ニ在ト或説ニ云ヘリ就ベシ

○別記尊殿ノ墓ハ字戸領忠佐ニ在リトス

長壽院殿松岩貞雲保連自久大居士

黒川左源大夫　墓

心月瑞圓大姉

波多三州公前室

山本村心月寺ニ

常室妙安大姉　　佐嘉

三孫公之後室龍造寺山城守隆信之息女佐嘉城
下妙安寺小路妙安寺ニ墓アリ御合力米百俵家
御領主ヨリ寄附

花禁常樹大禅定門　　同

右後室ノ子孫太郎同寺ニ在

関清治墓（キヨハル）　　五反田村

籠大鼓ノ謡ニ関清治事ハ有リ
為ジ

奈良寄備前守源永祐墓　　吉井村

草禁長門守永久ニ仕ヘ此所ヲ知行ス
一説ニ清治ノ村ヲ領ス此所ニ墓有リトス

大塔殿ノ墓　　平原村

大塔宮ノ墓ト云傳ヲ大ナル墳陵アリ其近邊ノ
地名ニ和多楠ニ皆堂ト云所アリ明カナラスト
雖モ何レ訳有ルヿ也今庇（蔭）無ナト頃ヒ立顧レテ
木ヲ林奉納スル習俗也

寛永十四丑年十一月
前志州大守休甫宗可大居士　　鏡村

唐津創造之城主寺沢志摩守廣高公墓所
石塔守道祖　　高五尺御領主大久保養ヨリ代々
被下之

正保四丁亥十一月十八日
孤峯院殿白室宗不居士　　唐津近松寺

志那義之嗣君寺沢兵庫頭忠喜墓

瑞泉院　寛永十七六月廿一日　溪月宗清大姉　同

同浙御内室

御久塔ト云　源太夫判官久公ノ墓ヲ祭ル　千々賀村

波多家之祖君久公平戸墓所拝礼遠境故此所ニ石塔ヲ建立有リ川向石志清水ノ館ヨリ石塔迄僧侶布ヲ張リ銭ノ綱ヲ用ユト云傳其本山其本寺ト云真言宗ヲ建立シ石塔守トシテ田五町寄附有リト也諸云以後一族共ニ容々トなり其本寺ハ其本坊ト云山伏ト成リ今ニ在リ

北条氏房石塔　黒岩村　禅宗　醫王寺

大閤名古屋在陣中死去欲初同所龍泉寺ニ在リ也凱陳以後此寺ニ改葬ストル

大友之塔　同

醫王寺後ノ山上ニ大キナル墓所也豊後ノ大友欣分明ナラス

盛家之墓　立川村

大塚播磨守盛家初彈正忠鎮家ト云ヒシ人也龍造寺隆信ノ幕下也此所ニ戦死今松ナリシリ立松ト云

鶴田太郎左エ門墓　　筒井村

松浦黨ノ一族也波多家落去以後秀吉公ノ命ニ
因テ松浦殘黨押エトシテ城後城ニ居置キ為リ
其家臣松尾右近太夫墓所同村ニ在則松尾ヶ丸

田島甲斐守墓　　中里村
同人子
日高大隅守墓　　入野村
二男八重橋川添監物父抱ヲ死

中浦平太郎墓　　中浦村

鷹崎照
安所ヲ頼ス
墓
星賀和泉守墓　　木場村
安所ニ知行ス　　星賀村

星賀ヲ頼ス
鎮西八郎為朝石塔
是ハ恩ヲ受ケタル人主ヲ迎ヲ建立シタル者欤　　和多田村
（湊）
（唐房欤）村

大久保加賀守忠職奏石塔
林道春之碑銘ヲ別記ス　　和多田村
寛文十庚戌四月十九日易簀於京都麻生第享年
六十七ト云云寛文十二壬子四月十九日唐津城
主從五位下出羽守大久保忠朝立奥ニ詔ス延宝
六戊午四月十九日弘文院學士林叟謹記林春常
書之

肥後國阿蘇山大宮司惟直墓　天山嶽

天山之頂上ニ在リ建武三丙子年足利尊氏與
官軍新田義貞戰不利九州ニ走リ筑前國多々良
濱ニ於テ官軍肥後國菊池氏大宮司惟直ト共ニ
足利ト戰不利惟直ハ松浦郡天川山之内小杵山
ニテ自殺ス遺言シテ阿蘇山ニ見ル所ニ葬ルベシ
ト也因テ此所ニ埋葬ス石碑墓共ニ高サ四尺一
寸臺一尺二寸四方也

土井大炊頭利延墓　神田村

延享元甲子七月十六日於常陸御逝去諡ハ諦了
院殿前大倉令寂照湛然大居士ト号神田村御山ニ
葬

水野和泉守忠光墓　和多田村

文化十一甲戌四月四日御逝去諡珍諦院殿寛豊
是道大居士葬雄嶽

溢江盛岩墓　浦河内村

銘ニ云大永六丙三月十七日盛岩ト云ヒ
ト云

杵島郡塩見城明德年間溢江修理太夫橘公治居
千坊トアリ明德ヨリ百三十年程後ニ營ル戰
国興廢中ノ変ナルベシ従臣ノ墓側ニ数多アリ

秀島備後守貞廣墓　　牧瀬村

永仁年間ヨリ九州探題千葉氏ニ屬シ小城郡晴
氣城ニ據リ秀島木下毛利松浦郡上ケ山城ニ出
張郡縣ヲ支配スル之後封建トナリ皆諸侯之國
トナル故ニ三家共ニ波多家ニ屬ス秀島氏持傳
フル日ノ時ニ上輪塔アリビゴ殿墓トス傳フ

平之九郎天晶墓　　平之山

是ハ秀島氏ノ少ケ城ニ據ル故時平之ヲ氏トス
墓平之ニ在

足利五郎九郎　墓　　同

是ハ平之山ノ内屋鋪トス所ニアリ

木下大膳　墓　　同

是ハ同所岩諸トス所ニアリ

木下四方之助　墓　　同

同断

松浦冊後少將源政公墓　　波瀬村

獅子城開祖尉也波瀬村庄屋山ノ内ニ墓アリ上
輪塔也石水鉢銘ニ按君等前トアリ繪圖別記ス
系圖ニ峯五郎按トアリ

鶴田越前守源前公墓　　同

銘ニ云フ前越州大守確光院閑岡宗玄府君天正二丁丑
天六月廿八日

鶴田上総介源賢公墓　　小城郡

越前守之嗣君也銘ニ云フ前総州別駕三省忠憲府
若殤永四丁卯天四月廿七日行年八十三

南山村切岳寺ニ在

曽野長門守永久墓

謚勝運院殿前長州大守切岳浄勲大居士

太宰少貳廣嗣之廟

五反田村

英怨寺大明神ト尊崇ス社司之記別ニ有松浦

廟ト稱ス

黒川佐源太大弘之墓　　小黒川村

碑表ニ云フ大居士

長寿院殿保運自久

渡邊源五綱之後裔天永三壬辰年黒川峡ヲ城ニ
移居松浦南郷ヲ領ス

有浦大和守墓　　有浦村

小笠原佐渡守長和公墓　　唐津近松寺

天保十二辛丑閏正月廿三日於唐津御逝去謚祥
鳳院殿前佐州大守端輝宗嚴大居士

佐志村誌　墓

佐志村

平家盛墓

此墓元来宇久島ニ在りしヲ近年改葬ヲ江城内ニ移シ櫻現社ト唱フ従者七人ヲ其墓モ同ジ城内ニ移シ玉ニルト也

上島　深江城内

松浦源大夫判官久墓

平戸　今福

上下松浦後ノ祖也諡名光久久寿元年九月十九日逝去今福院陵寺ニ祀ル今福大明神ト敬崇ス又千々賀村ニ御久ノ塔ト云ハ参州公築之今福ハ遠方故ニ祭ノ為ニ碑ヲ建ラル、所也今ニ諱名ヲ以テ唱来レリ

宗悟

寛永十三六月五日　平山上村

字猫野尾ト申所ハ大ナル五輪塔有リ如斯銘二字ト年号月日而已ニテ誰ト云事モ知ラズ唐津寺沢兵庫頭公家臣ノ墓ト聞也可考傍ニ小ナル五輪塔三ツアリ由来不知

上輪塔　上段ニ大　三基　右ニ大小九基　左ニ大小七基　三ツ共ニ墓ノ上高サ二尺七寸

浦河内村

次五輪塔庄屋東山鶴田氏総次賢公寄進之地蔵堂琴松菴ト云其傍ニ在リ文宗樂ノ誰人ノ塚トハ

知レス然レ共
並ビ在ルハ臣
方十六人

五輪塔　高サ壹丈二尺六寸　一基　同

是ハ在屋敷ノ方ニ在リ往屋地主神トシテ祭リ来ル也

五輪塔　高サ　同

是ハ字天神前松ノ元トモ

井手筑後守　墓　大川家村梅園ニ在リ

畑津平内清和　墓　畑津村

南源三郎繁　墓　大川野村　高峯

梶山駿河守　墓　梶山村

中里九内貫久　墓　中里村

堤孫兵衛知吉　墓　赤木村

鶴田尋舍　墓　高瀬村　宇土山ニ在

赤坂治郎太夫之墓

有田丹後守榮墓

謚日秋宗圓居士文禄二癸巳九月十一日於吉野卒

有田郷吉野ニ在リ

○德居村瑞巖寺ニ波多侯五代之碑有之如左

前勢州大守好政院殿蘭度玄芳大居士應永二九癸酉年七月十三日

前丹州大守好度院殿麥吉ノ相大居士永享四壬寅年十月八日

前三州大守好久院殿白用道雪大居士天文十四乙巳年八月十六日

前信州大守好教院殿蘭山了無大居士永禄八乙丑年二月九日

前三州大守好清院殿大翁了徹大居士文禄三甲午年三月九日

実者安部氏婦男也トアリ

○兒子嶽城ノ麓佐里村ノ内ニ表石ヲ建其石ノ邊ニ土穴アリ竿ヲ入ラ其深サヲ知ラス石陛アリテ登ルベキ構アレハ人行クヿ能ハス定メテ石棺ナド在ルベキ樣子ニ見エタリ表石文字消テ分ラス唯二字如レタルハ如左

前國ト在ル文字上下消タリ

○波多家奥方諡号

圓翁院殿	軌源妙花大姉	伊勢守室	永德二戌三月八十四歳逝
圓通院殿	拜室妙清大姉	丹波守室	永享十午九月廿日八十九歳逝
圓明院殿	南山永壽大姉	三河守室	天文三年八月廿五日百九歳逝
圓慶院殿	法林妙華大姉	信濃守室	天正三乙亥三月十九日九十八歳逝
日法院殿	桃林妙香大姉	四方進室	天文十三寅三月三日十九歳逝
日生院殿	心月瑞圓大姉	三河守室	天正二戌九月廿日二十一歳逝

鹽尹垂澤碑

中島村鉄鉋町

鹽尹者誰。謂曰田府尹。大四郎。鹽谷君也。若碑所由。樹。概見于銘中。則不復贅于此。銘曰。

漢置郷卒。自寺志州。田宅免税。力役亨爰。閑示稍食。宅無相收。水虞投邑。獻去漢津。日田府尹。受而撫循。衆皆浴澤。中有迴鱗。郷卒四十。閑吏六人。將失舊職。降遠編民。尹隱其危。衆訴盡心。官允其請。舊制是遵。其恩再造。合結誓神。謀樹片石。請予銘焉。以示後裔。千載欲新。志州修劃。鹽尹攸因。雖石不朽。其烈豈磷。

文政戊寅春

北筑山口豊撰

右鹽谷君諡号如此

唯一院殿成善日道居士

鹽谷大四郎正義公　天保七年丙申九月八日逝

嗣君諡谷捨五郎
當時西丸御小納戸

○孝子善次之墓

立川村

天明ノ頃唐津ノ城主水野侯ノ封内松浦郡相知村善次池原村治次皆平三人ノ孝子　侯臺ニ召レテ褒賞アリ各米十苞及ビ饗膳ヲ賜ル後、家宰二本松君致仕シテ梅里山海夫ト稱スル御方ヨリ三子ノ行狀ヲ書シテ孝子紀事ト標ル各一卷ヲ贈ラル善次嗣ナシ唯姪ノ在ノミ立川村松左エ門カ妻野惠女是ハ善次晩年松左エ門カ家ニ寄偶シテ遂ニ父化ス癸酉年二月七日行年八十六歳ニテ身マカリマ其後紀事（松左爾カ）家ニ秘藏ス干時文政ノ始侯封ヲ遠州濱松ニ移シ玉フ其上知郡ノ東南若干村豐州日田郡宰鑒公次地ヲ知リ玉フ同十一戊子冬十月郡事ノ序其紀事ヲ聞セラレ彼姪等亦善民ナルヲ感賞アリテ里正祐藏ナル者ニ命シ墓ニ表シ紀事ヲ碑陰ニ錄シ不朽ニ備フベシ又次紀事俗ニ通シカタケレハ下民ニ便リナラス故ニ国字ニ解シテ其傍ニ記スベシト秀島義剛ニ命セラル因テ善次カ碑陰ニ三子ノ行狀ヲ并セ書スルモノ左ノ如シ

○治次ハ父母ニ仕テ孝心深ク天明戊申ノ年其齡四十六歳父弼一八十八歳ナリ母ハ先ツテ卒シ又治次耕作ヲ為テ養育不足ナレバ瓦用ニナルベキ少シノ高キノヲ鬻テ生産ノ助トセリ平生父ノ意ヲ承ケ順ヒ皆ニ安否ヲ尋子晨ニ省シテ毎ニ闕ケナシ父酒ヲ好ミ故ニ終日飲所ヲ許リ調ヲ時々侑メテモハ是ヲ飲フナシ耕シ刈リ村ヒ賣リス隣家ニ頼ミ或ハ他人ヲ雇ヒナトシテ老父ヲ看セシメ酒害ヲ其人ニ委ネテ父ノ酒ヲ好ムニ隨テ飲マシメヨト

云テ他ニ出又父老耄シテ治伏器主ニハ匿ヤウノ物席ニ取乱シ有ヲ治伏帰リヲ少シモ痛メル色ナク徐ニ是ヲ収ヲ父ノ意ヲ安カラシム又父近里ニ行ン支ヲ思エハ治伏脊負ヲ父ノ意ヲ達シ遣シナル次彌一モ若年ノ頃ヨリ孝色アリシ者ナルカ其子斯ノ如クナルハ初ヨリ其習アリト聞エ

○曾平ハ父母ニ事テ孝心母早ク身マカリテ家マツシケレモ農業ヲ失ハス出ル時ハ其耕場ヲ父ニ告ケ帰レバ面シ其行ヒ少モ衰エス凶歳ニハ食孫ヒケレバ麁食菽藿ヲ用ヒ其中ノ善キ所ヲ取テ父ニ侑メ已ハ其麁ナル処ヲ食シ父常ニ鞵ヲ作リ曾平ヲシテ賣ラシム曾平其價ヲ以テ一銭モ已カ用トセス皆父ノ費用ニ供フ天明戊申曾平四十六歳父角八八十四歳ナリ

○善伏ハ父母ニ事テ孝心深シ父早ク卒シ母老テ聾トナリ又聾トナリケレハ起居自由ナラス床褥ニ臥スル事三ヒヒ也善伏農業ノ隙懇ニ伏抱レ少モ怠ラス貧シケレ共寒キ時ハ常ニ火ヲ瓦盤ニ設ケ土瓶ヲ其上ニ置キ湯茶ヲ煎シ母ノ傍ニ箱ニ置其意ニ隨ハシム二便ノ時善伏抱シテ厠ニ行若シ或ハ後ル、サハ善伏試テ母ノ意ヲ安カラシム善伏在サレハ母獨リ匍匐シテ行ヌル故善伏是ヲ恐レテ耕ヲ止メ家ニ帰リテ窺フ〻シバ〻也夜ハ母ヲ扶テ涼所ニ出テ浴シテ暑ヲサケシム冬ハ已カ手ヲ焙リテ母ノ面ヲ撫手足マデサスリ温メ寒ヲ禦キ其陽氣眉宇ノ間ニ發シテ後止ムト也天明戊申善伏齢六十母子志九十八

歳ナリ

公常ニ都事ニ臨ミ玉フ毎ニ孝子貞婦ノ説ニ及ヒ玉ヒヌ

立孝義ヲ好ミ玉エハ国人是ニ興起スル處備哉坎擎アルヿ孝者百行之本篤善之源トハ誠哉人ノ人タル所ノ道ナレバ心其道天ニ出ル人ノ私スル處ニ非ス火ノ熱キ水ノ寒キカ如ク其理ヲ知ル人ハ言フ変ノ易キ行フヿノ難キモ何ゾ一致セザランヤ又村落ノ愚夫愚婦タルモ是ヲ見聞ヲカヲ用ヒ善ヲ進ムノ警勵人民ノ大幸是ヨリ大ナルハナシ因ヲ謹而記

牛牧ハ壹岐ノ内長峯牧嵩是所ヲ牛牧ト分賀目

云フ　平戸人ハ牛山墓之元ノ説

右鶴田則松浦定ト爭論ノ地

一本目ニ出

櫃野ト唱ヘ哉　末考　延喜式ニ出タリ

何レ之領内ニ有ヤ

一橋浦　同断

續日本記ニ出タリ大宰少貳小値賀島ヨリ橘浦ニ引返レラ生宮ヒ玉フト記ニ出タリ上松浦ノ内ト見エ何レノ処ヲ云歟

一合瑳田浦　同断

同書ニ出タリ相子ト田浦ト二ヶ所ノ了ニ於　按ニ呼子殿浦ナルベシ

載ナリ

公常ニ郡事ニ臨ミ玉フ毎ニ孝子貞婦ノ説ニ及ビ玉ヒ又
上孝義ヲ好ミ玉エハ国人是ニ興起スル處偉哉以拳ア
ルヿ孝者百行之本萬善之源トハ誠哉人ノ人タル所ノ道
ナレバ也其道天ニ出ヅ人ノ私スル處ニ非ス火ノ熱キ水
ノ寒キカ如ク其理ヲ知ル人ハ言フ変ノ易キ行フヿノ
難キモ何ゾ一致セザランヤ又村落ノ愚夫愚婦タルモ是
ヲ見聞ラカヲ用ヒ善ヲ進ムノ警勵人民ノ大幸是ヨリ大
ナルハナシ因ヲ謹而記

松浦郡古跡ノ中不分明ノ分質目

一 櫃野牛牧　何レ之領内ニ有ヤ

櫃野ト唱ヘ或　未考　延喜式ニ出タリ

一 橘浦　同断

續日本記ニ出タリ大宰少貳小値賀島ヨリ橘浦ニ引
返レラ生宮ヒ玉フト記ニ出タリ上松浦ノ内ト見エ
何レノ処ヲ云歟

一 合蟹田浦　同断

同書ニ出タリ相子ト田浦ト二ツ所ノ了ル　按ニ呼子殿浦ナルベシ

48581
0791
15縣
16=2

一 関王祠　圖書編ニ曰タリ関羽ヲ祭ル社ナリ　何レノ所ニアリヤ

一 葦浦　平戸ノ内欽

一 拂掃　圖書編ニ肥前ノ内ニ見エタリ伊波他トカ所イフサトカイホサトカカ云所アラハ其所ニテモアルベシ

一 那護野寶泉寺　名古屋龍泉寺ノ支流如何

一 海東諸國記ニ見エタリ　唐津ノ塩津里ニ故寺アリヤ否

一 塩津留松林院　同断

一 塩津留觀音寺　同断

一 阿彌陀寺　同断　平戸ニアリヤ

一 光明院　同断

縣立佐賀
24.11.18
圖書館